

第2章 調査結果の詳細

2-1 一般高齢者【基本】調査

(1) ご本人について

①調査票の記入者

<図表1> 調査票の記入者

調査数	調査票の記入者			
	本人	家族	その他	無回答
1,864	1,551	53	3	257

②現在の状況（本人の不在の事情）

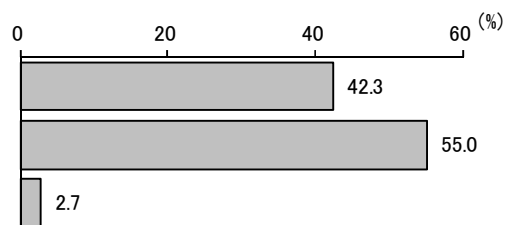
<図表2> 現在の状況（本人の不在の事情）

調査数	現在の状況（本人の不在の事情）					
	医療機関 に入院中	福祉施設 に入所中	転居	死亡	その他	左記に該 当しない
1,864	4	1	-	1	13	1,845

③性別

<図表3> 性別

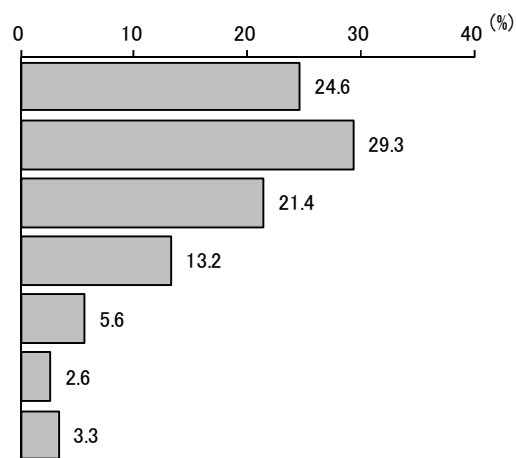
	基数	構成比
男性	788	42.3%
女性	1,025	55.0%
無回答	51	2.7%



④年齢

<図表4> 年齢

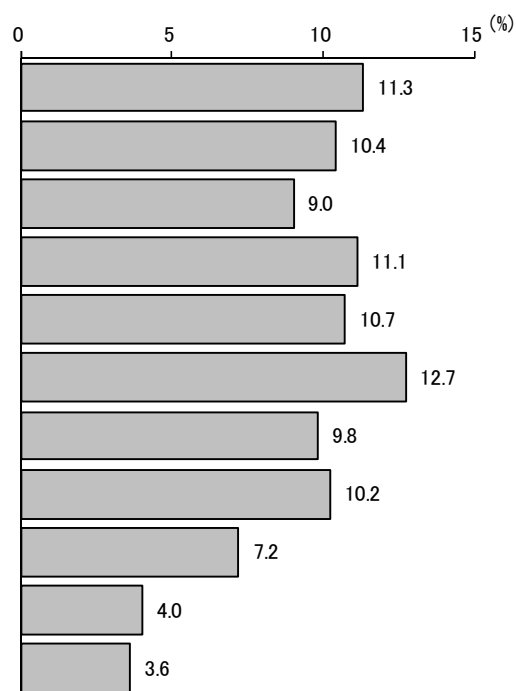
	基数	構成比
65歳～69歳	458	24.6%
70歳～74歳	547	29.3%
75歳～79歳	399	21.4%
80歳～84歳	246	13.2%
85歳～89歳	104	5.6%
90歳以上	49	2.6%
無回答	61	3.3%



⑤お住まいの地区

<図表5> お住まいの地区

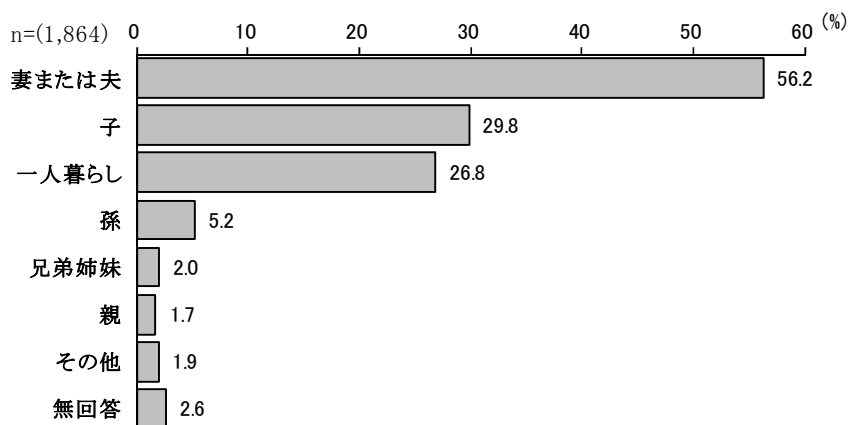
	基数	構成比
四谷	210	11.3%
簗笥町	194	10.4%
榎町	168	9.0%
若松町	206	11.1%
大久保	200	10.7%
戸塚	237	12.7%
落合第一	183	9.8%
落合第二	190	10.2%
柏木	134	7.2%
角筈	74	4.0%
無回答	68	3.6%



⑥同居者

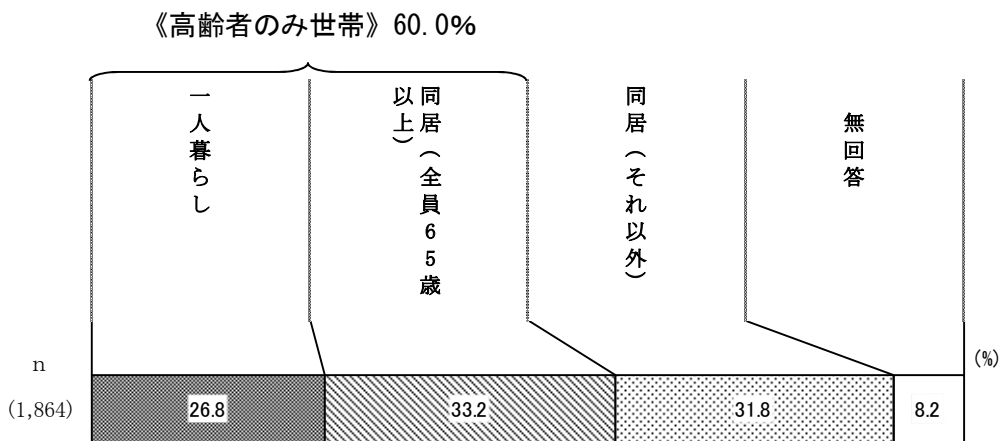
問4 現在、あなたはどなたかと同居していますか。同居している場合は、あなたからみた続柄で、同居している方すべてに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

<図表6> 同居者（複数回答）



同居の状態についてたずねたところ、「一人暮らし」(26.8%)が2割台半ばを超えている。同居している人は、「妻または夫」(56.2%)が5割台半ばを超え、次いで、「子」(29.8%)の順となっている。

<図表7> 世帯構成

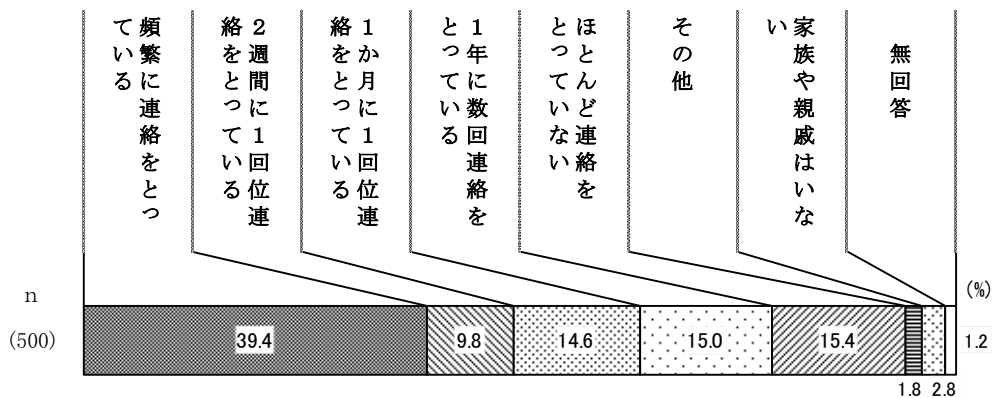


世帯構成についてたずねたところ、「一人暮らし」(26.8%)と「同居(全員65歳以上)」(33.2%)をあわせた《高齢者のみ世帯》は60.0%となっている。

⑦家族や親戚との連絡

問4-1 《問4で「一人暮らし」を選んだ方のみお答えください》
 あなたは、ご家族やご親戚と連絡をどのくらいとっていますか。(1つに○)

<図表8> 家族や親族との連絡

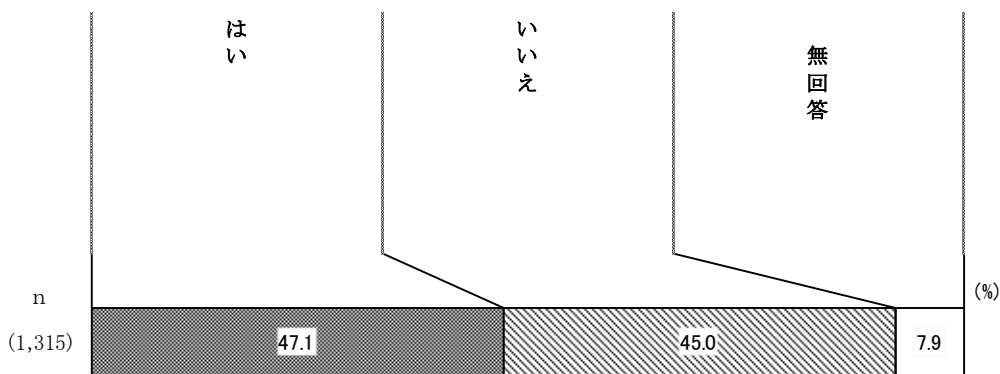


問4で「一人暮らし」と回答した人に家族や親戚と連絡をとっている頻度についてたずねたところ、「頻繁に連絡をとっている」(39.4%)が4割弱で最も高くなっている。

⑧同居者の年齢 (全員65歳以上か否か)

問4-2 《問4でどなたかと同居していると回答した方のみお答えください》
 同居の方は、全員65歳以上ですか。(1つに○)

<図表9> 同居者の年齢 (全員65歳以上か否か)

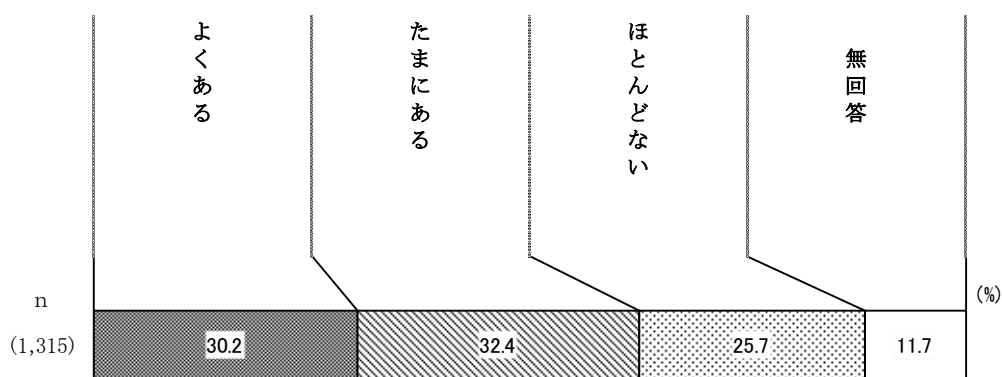


問4で《同居者がいる》と回答した人に同居者が全員65歳以上かについてたずねたところ、「はい」(47.1%)は4割台半ばを超えている。

⑨日中の独居状況

問4-3 《問4でどなたかと同居していると回答した方のみお答えください》
日中、一人になることはありますか。(1つに○)

<図表10> 日中の独居状況

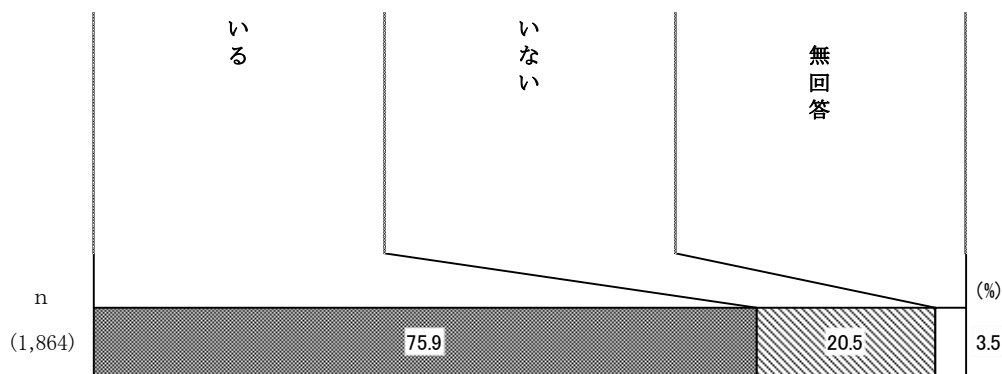


問4で《同居者がいる》と回答した人に日中一人になることがあるかについてたずねたところ、「たまにある」(32.4%)が3割強で最も高く、次いで、「よくある」(30.2%)、「ほとんどない」(25.7%)の順となっている。

⑩同居者以外に手助けを頼める人の有無

問5 あなたが日常生活で困ったことがあった時、同居者以外に誰か手助けを頼める人がいますか。(1つに○)

<図表11> 同居者以外に手助けを頼める人の有無

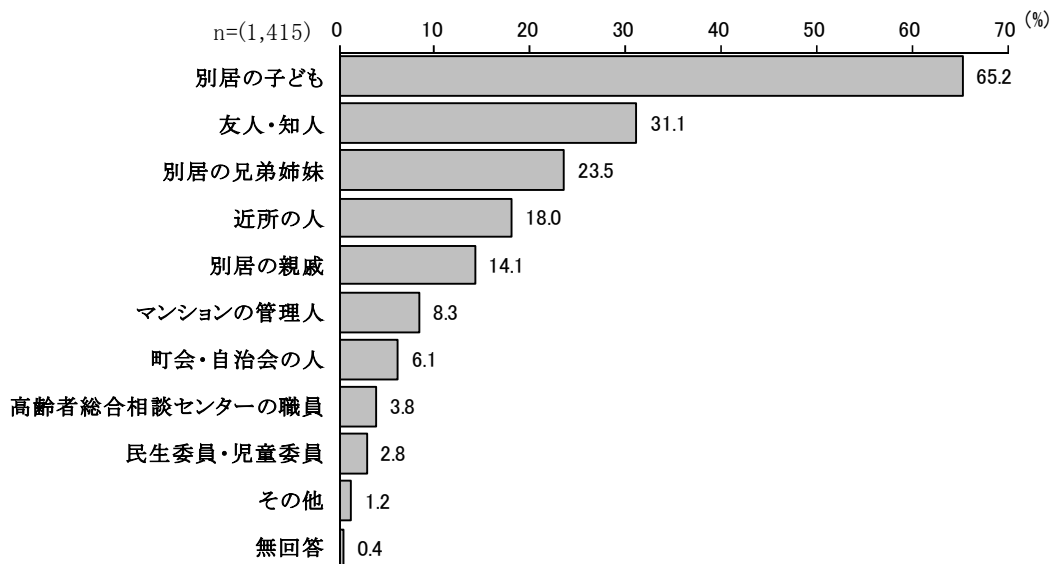


同居者以外に日常生活で困った時に手助けを頼める人の有無についてたずねたところ、「いる」(75.9%)は7割台半ばとなっている。

⑪手助けを頼める人

問5-1 《問5で「いる」を選んだ方のみお答えください》
手助けを頼める人はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表12> 手助けを頼める人 (複数回答)

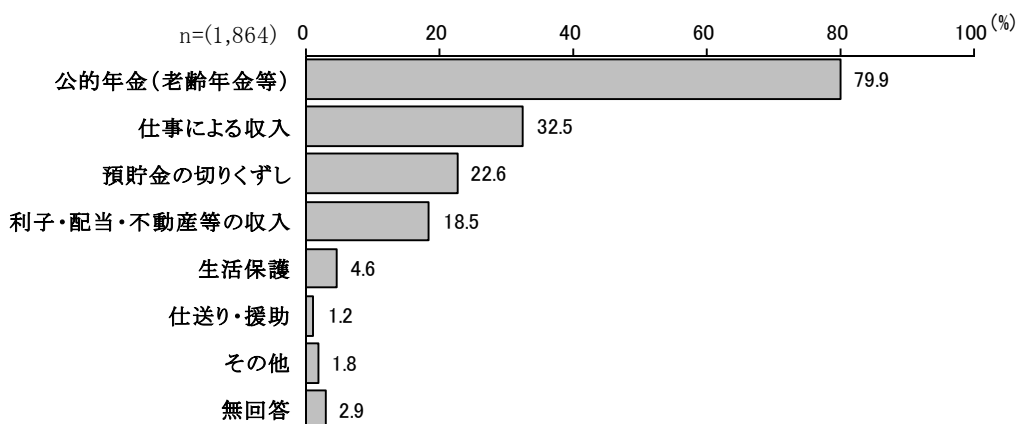


問5で同居者以外に手助けを頼める人が「いる」と回答した人に、その依頼先についてたずねたところ、「別居の子ども」(65.2%)が6割台半ばと最も高く、次いで、「友人・知人」(31.1%)、「別居の兄弟姉妹」(23.5%)となっている。

⑫自身の収入

問6 あなたご本人の収入は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表13> 自身の収入 (複数回答)

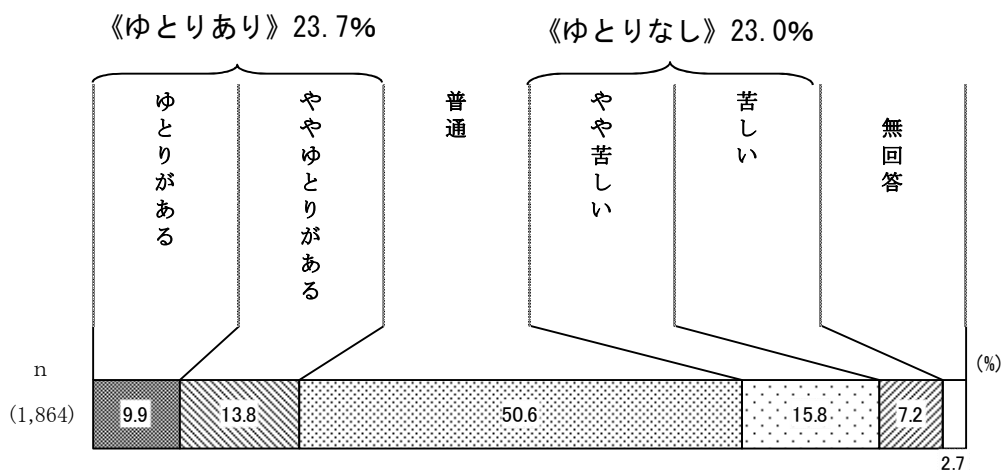


自身の収入についてたずねたところ、「公的年金(老齢年金等)」(79.9%)が8割弱と最も高く、次いで、「仕事による収入」(32.5%)、「預貯金の切りくずし」(22.6%)の順となっている。

⑬現在の暮らし向き

問7 あなたは、現在のご自身の暮らし向きをどのように感じていますか。(1つに○)

<図表14> 現在の暮らし向き

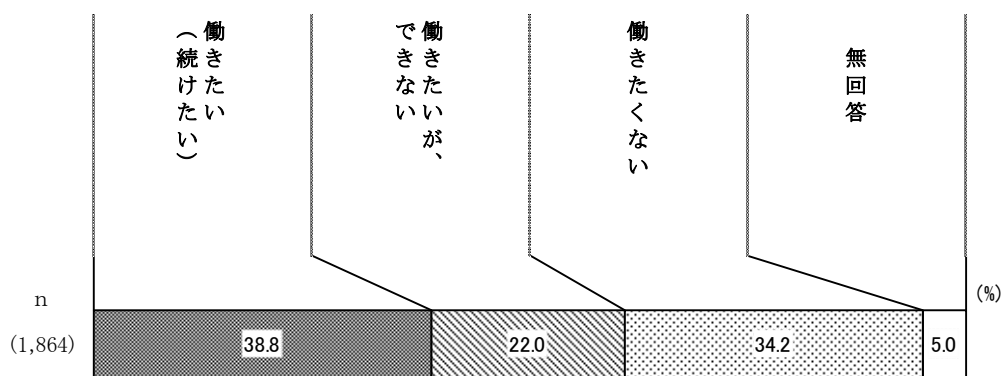


現在の暮らし向きについてたずねたところ、「普通」(50.6%)が約5割と最も高く、「ゆとりがある」(9.9%)と「ややゆとりがある」(13.8%)をあわせた《ゆとりあり》は23.7%となっている。

⑭今後の就業意向

問8 あなたは今後、働きたい(働き続けたい)ですか。(1つに○)

<図表15> 今後の就業意向

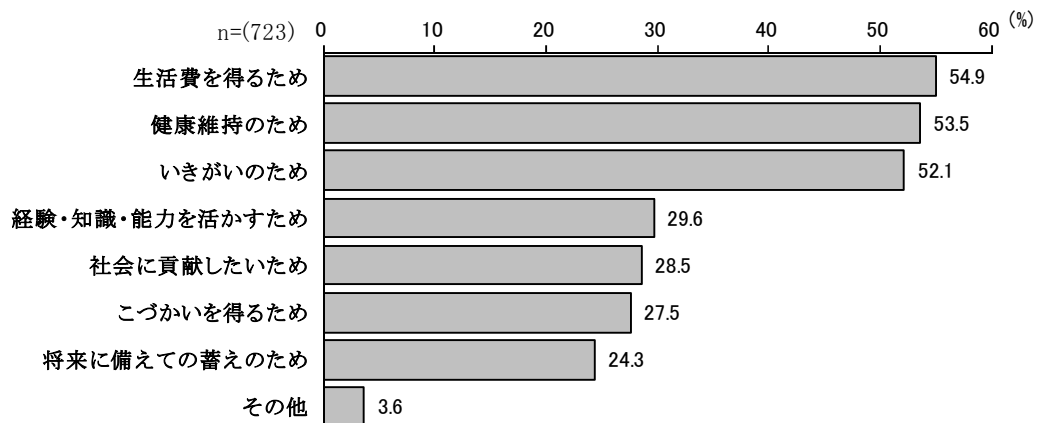


今後の就業意向についてたずねたところ、「働きたい(続けたい)」(38.8%)が4割近くと最も高く、次いで、「働きたくない」(34.2%)、「働きたいが、できない」(22.0%)の順となっている。

⑮働きたい（続けたい）理由

問8-1 <<問8で「働きたい(続けたい)」を選んだ方のみお答えください>>
働きたい(続けたい)理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表 16> 働きたい(続けたい)理由 (複数回答)

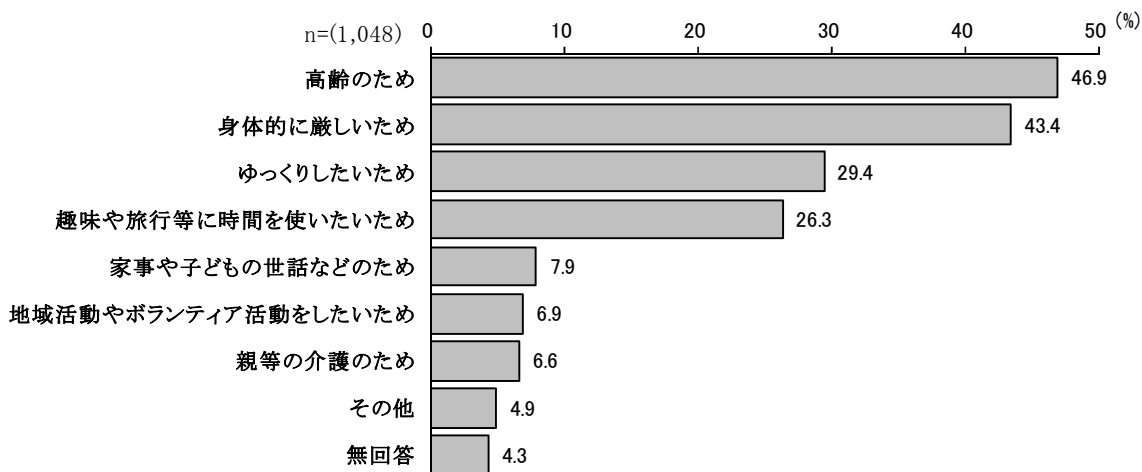


問8で「働きたい(続けたい)」と回答した人に働きたい(続けたい)理由についてたずねたところ、「生活費を得るため」(54.9%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで、「健康維持のため」(53.5%)、「いきがいのため」(52.1%)の順となっている。

⑩働けない（働きたくない）理由

問8-2 《問8で「働きたいが、できない」または「働きたくない」を選んだ方のみお答えください》
 働きたいが、できない(または働きたくない)理由は何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表17> 働けない(働きたくない)理由 (複数回答)

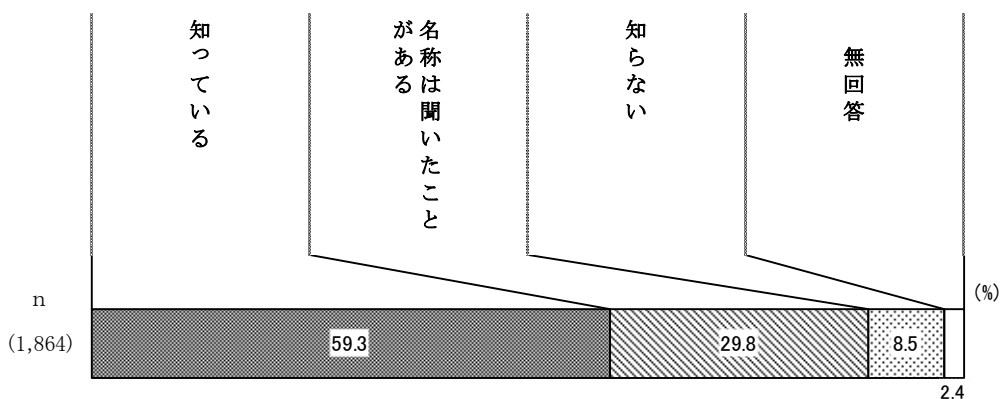


問8で「働きたいが、できない」または「働きたくない」と回答した人に働けない(働きたくない)理由についてたずねたところ、「高齢のため」(46.9%)が4割台半ばを超え最も高く、次いで、「身体的に厳しいため」(43.4%)、「ゆっくりしたいため」(29.4%)の順となっている。

⑪新宿区シルバー人材センターの認知度

問9 あなたは、新宿区シルバー人材センターをご存じですか。(1つに○)

<図表18> 新宿区シルバー人材センターの認知度



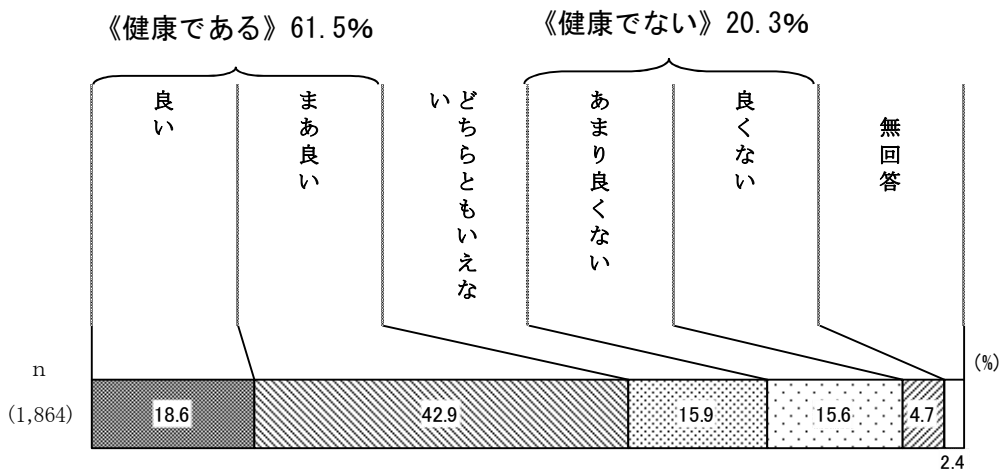
新宿区シルバー人材センターの認知度についてたずねたところ、「知っている」(59.3%)は6割弱、「名称は聞いたことがある」(29.8%)は3割弱となっている。

(2) 健康状態や健康づくり等について

①健康状態

問10 あなたは、現在の健康状態をどのように感じていますか。(1つに○)

<図表19> 健康状態

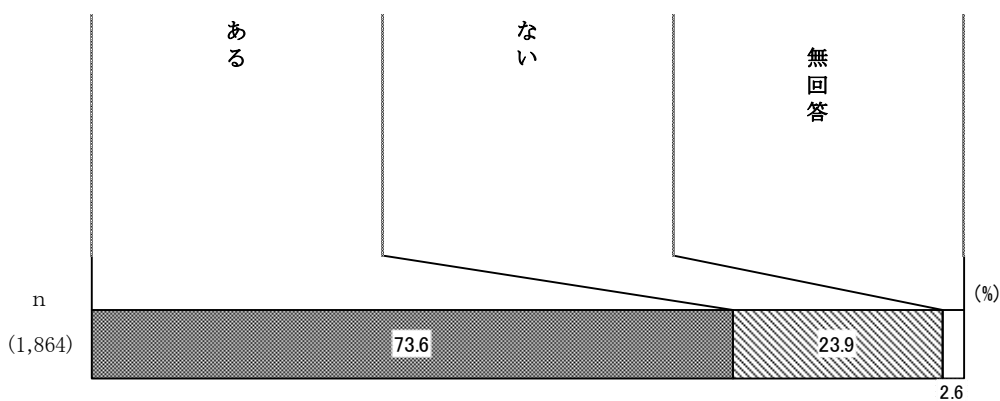


自身の健康状態についてたずねたところ、「良い」(18.6%)と「まあ良い」(42.9%)をあわせた《健康である》は61.5%となっている。

②治療中の病気の有無

問11 あなたは、現在治療中の病気がありますか。(1つに○)

<図表20> 治療中の病気の有無

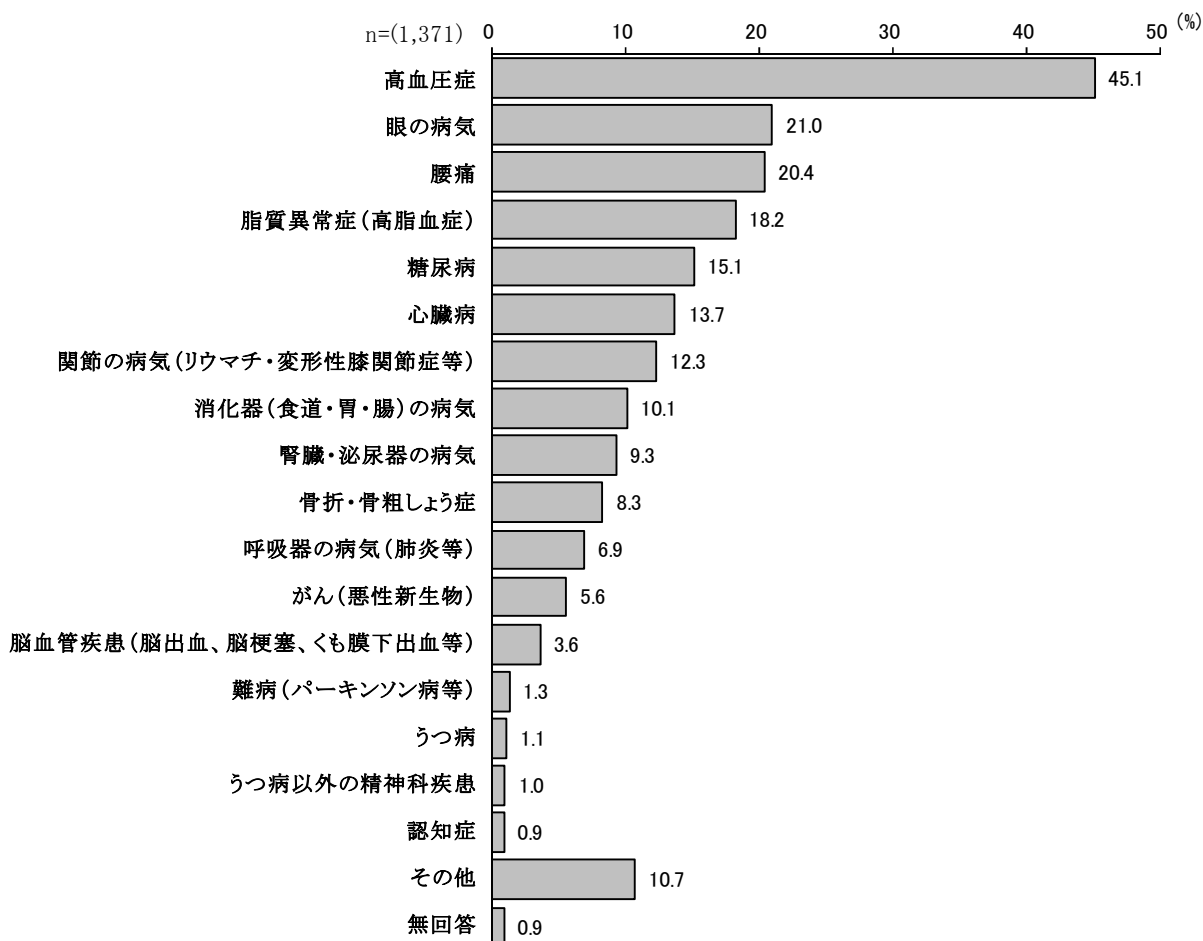


現在治療中の病気の有無についてたずねたところ、「ある」(73.6%)が7割台半ば近くとなっている。

③治療中の病気の種類

問11-1 <<問11で「ある」を選んだ方のみお答えください>>
 治療中の病気は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表21> 治療中の病気の種類 (複数回答)



問11で治療中の病気が「ある」と回答した人に治療中の病気についてたずねたところ、「高血圧症」(45.1%)が4割台半ばで最も高く、次いで、「眼の病気」(21.0%)、「腰痛」(20.4%)の順となっている。「その他」では、歯や耳鼻の病気といった内容があげられた。

④受診している医療機関

問11-2 <<問11で「ある」を選んだ方のみお答えください>>
 受診している医療機関は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表22> 受診している医療機関（複数回答）

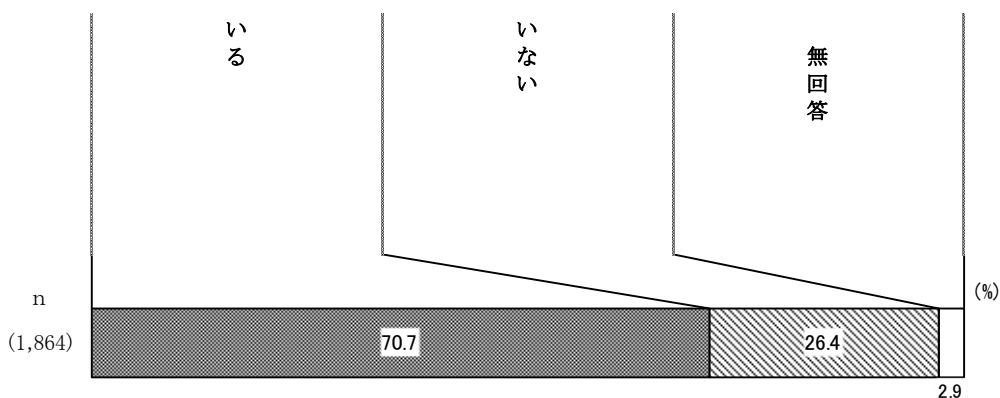


問11で治療中の病気が「ある」と回答した人に受診している医療機関についてたずねたところ、「診療所・クリニック（通院）」（52.1％）が5割強で最も高く、次いで、「病院」（49.5％）となっている。

⑤かかりつけ医の有無

問12 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。（1つに○）

<図表23> かかりつけ医の有無

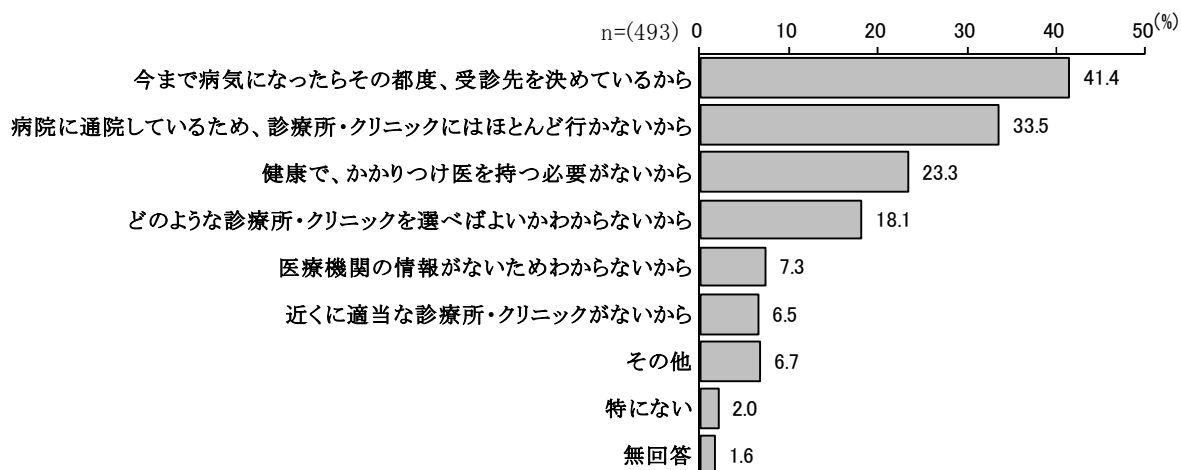


かかりつけ医の有無についてたずねたところ、「いる」（70.7％）が約7割となっている。

⑥かかりつけ医がない理由

問12-1 《問12で「いない」を選んだ方のみお答えください》
 かかりつけ医がない理由は、次のうちどれですか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表24> かかりつけ医がない理由 (複数回答)



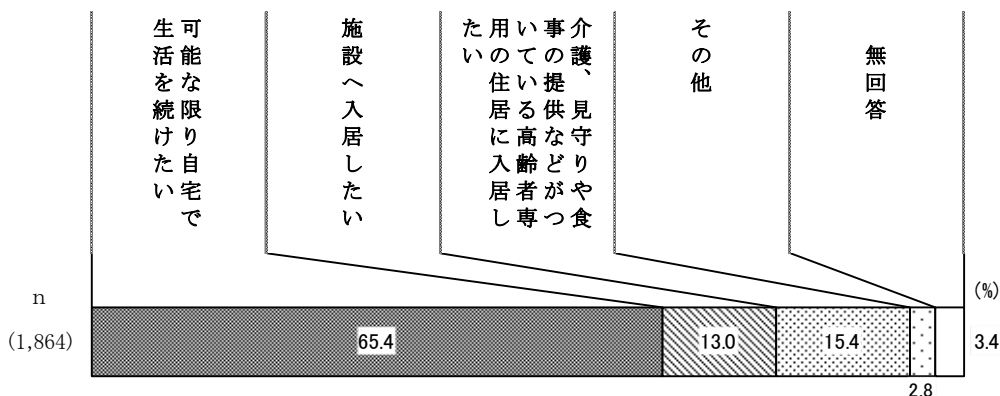
問12でかかりつけ医が「いない」と回答した人に、かかりつけ医がない理由についてたずねたところ、「今まで病気になったらその都度、受診先を決めているから」(41.4%)が4割強と最も高く、次いで、「病院に通院しているため、診療所・クリニックにはほとんど行かないから」(33.5%)、「健康で、かかりつけ医を持つ必要がないから」(23.3%)の順となっている。

(3) 在宅療養等について

①介護が必要になった場合の生活場所

問13 あなたは、介護が必要になった場合、どこで生活を続けたいと思いますか。
(1つに○)

<図表25> 介護が必要になった場合の生活場所

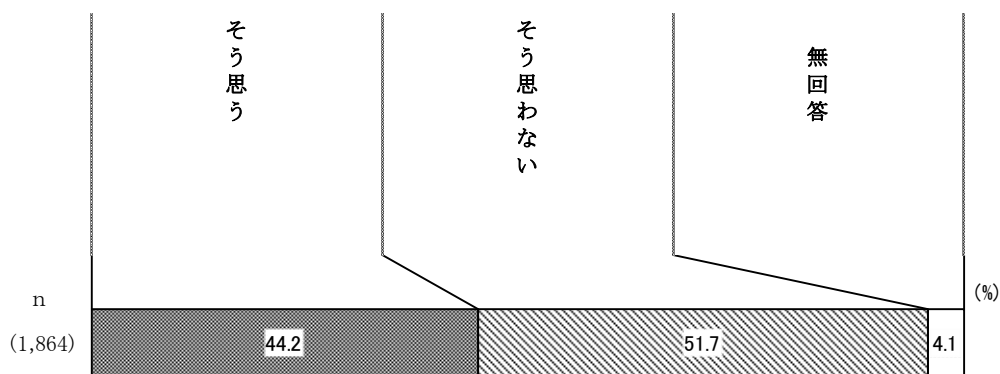


介護が必要になった場合の生活場所についてたずねたところ、「可能な限り自宅で生活を続けたい」(65.4%)が6割台半ばと最も高くなっている。

②在宅療養の意向

問14 あなたは、脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期の療養が必要になった場合、理想として自宅で療養を続けたいと思いますか。(1つに○)

<図表26> 在宅療養の意向

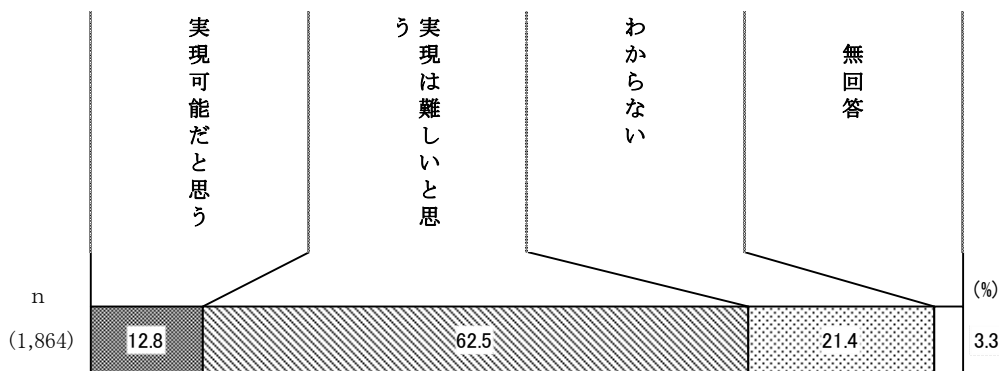


脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期の療養が必要になった場合の在宅療養の意向についてたずねたところ、「そう思う」(44.2%)は4割台半ば近くとなっている。

③在宅療養の可能性

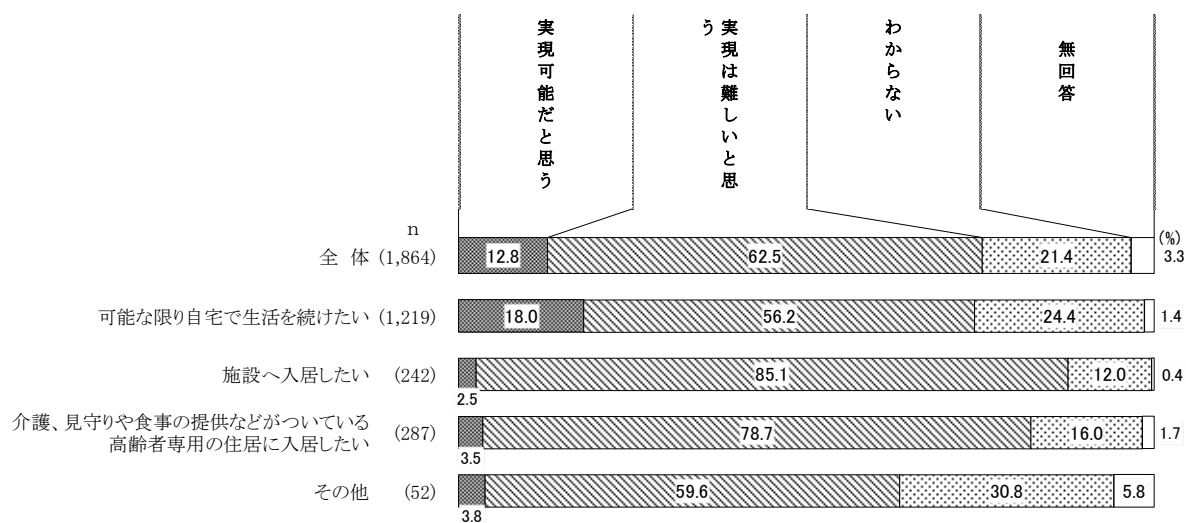
問15 ご自宅での療養は実現可能だと思いますか。(1つに○)

<図表27> 在宅療養の可能性



<図表 28> 在宅療養の可能性【介護が必要になった場合の生活場所別 (問 13)】

希望の生活場所別



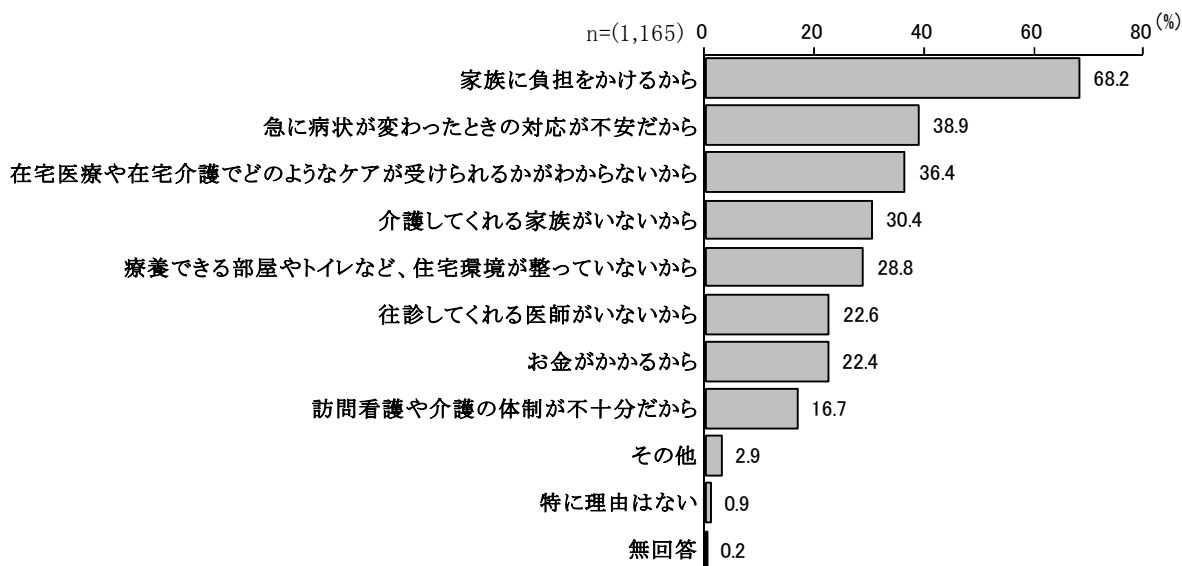
自宅での療養の可能性についてたずねたところ、「実現は難しいと思う」(62.5%)は6割強と最も高くなっている。

希望の生活場所別にみると、「可能な限り自宅で生活したい」と回答した人のうち、「実現は難しいと思う」(56.2%)は5割台半ばを超えている。

④在宅療養が難しいと思う理由

問15-1 ≪問15で「実現は難しいと思う」を選んだ方のみお答えください≫
 実現は難しいと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表29> 在宅療養が難しいと思う理由（複数回答）



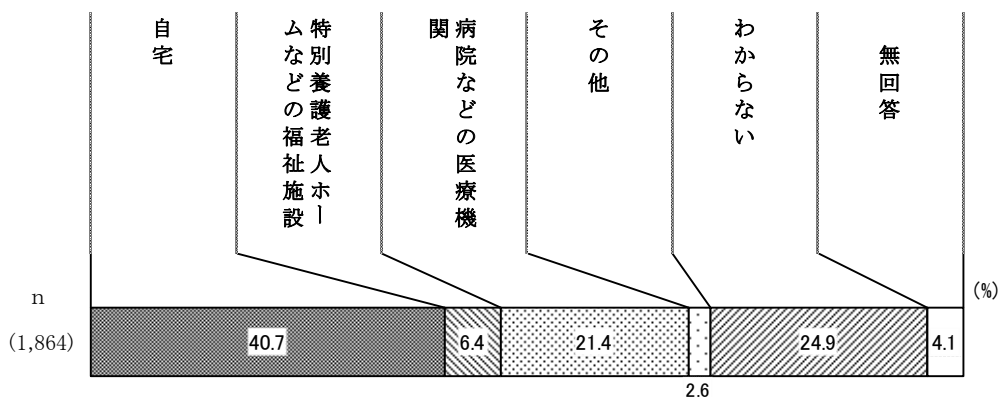
問15で「実現は難しいと思う」と回答した人に、在宅療養が難しいと思う理由についてたずねたところ、「家族に負担をかけるから」（68.2%）が7割近くで最も高く、次いで、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」（38.9%）、「在宅医療や在宅介護でどのようなケアが受けられるかがわからないから」（36.4%）の順となっている。

(4) 人生の最終段階における医療について

① 最期を迎えたい場所

問16 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。(1つに○)

<図表30> 最期を迎えたい場所

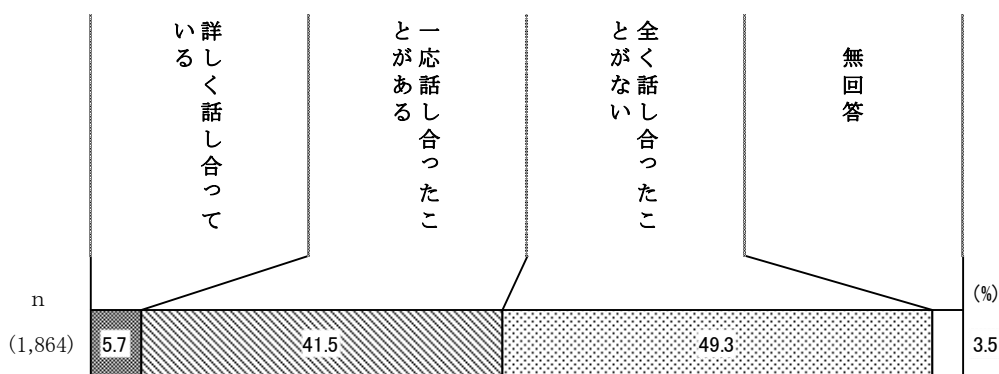


最期を迎えたい場所についてたずねたところ、「自宅」(40.7%)が約4割で最も高く、次いで、「わからない」(24.9%)、「病院などの医療機関」(21.4%)の順となっている。

② ご家族と話し合った経験

問17 あなたは、人生の最終段階において受けた医療や受けたくない医療について、ご家族とどのくらい話し合ったことがありますか。(1つに○)

<図表31> ご家族と話し合った経験

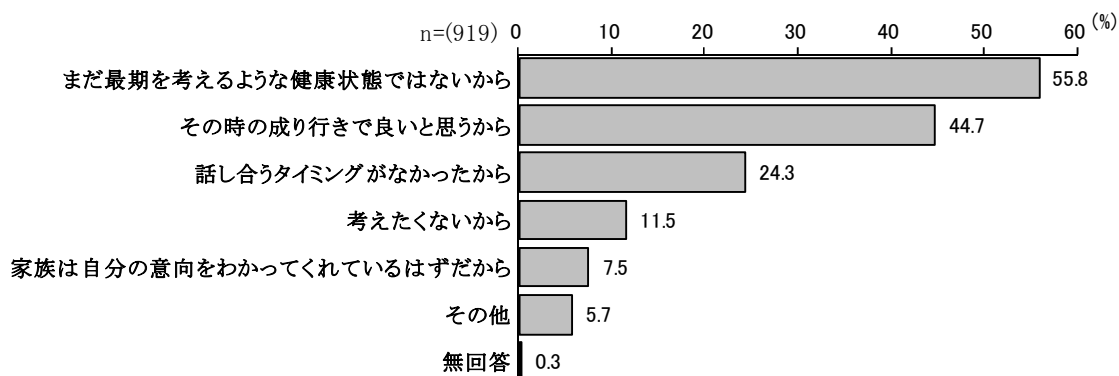


人生の最終段階において受けた医療や受けたくない医療について、ご家族と話し合った経験をたずねたところ、「全く話し合ったことがない」(49.3%)が5割弱で最も高く、次いで、「一応話し合ったことがある」(41.5%)となっている。

③全く話し合ったことがない理由

問17-1 《問17で「全く話し合ったことがない」を選んだ方のみお答えください》
それはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表32> 全く話し合ったことがない理由 (複数回答)

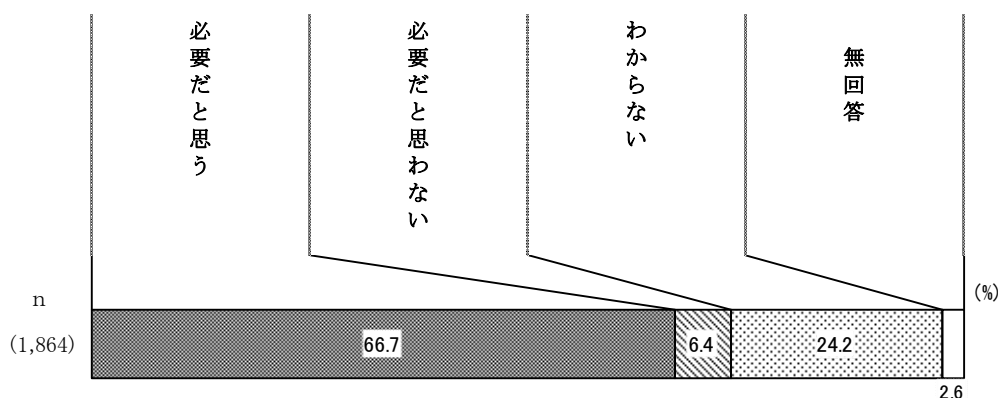


問17で「全く話し合ったことがない」と回答した人にその理由についてたずねたところ、「まだ最期を考えるような健康状態ではないから」(55.8%)が5割台半ばで最も高く、次いで、「その時の成り行きで良いと思うから」(44.7%)、「話し合うタイミングがなかったから」(24.3%)の順となっている。

④エンディングノートなどの作成

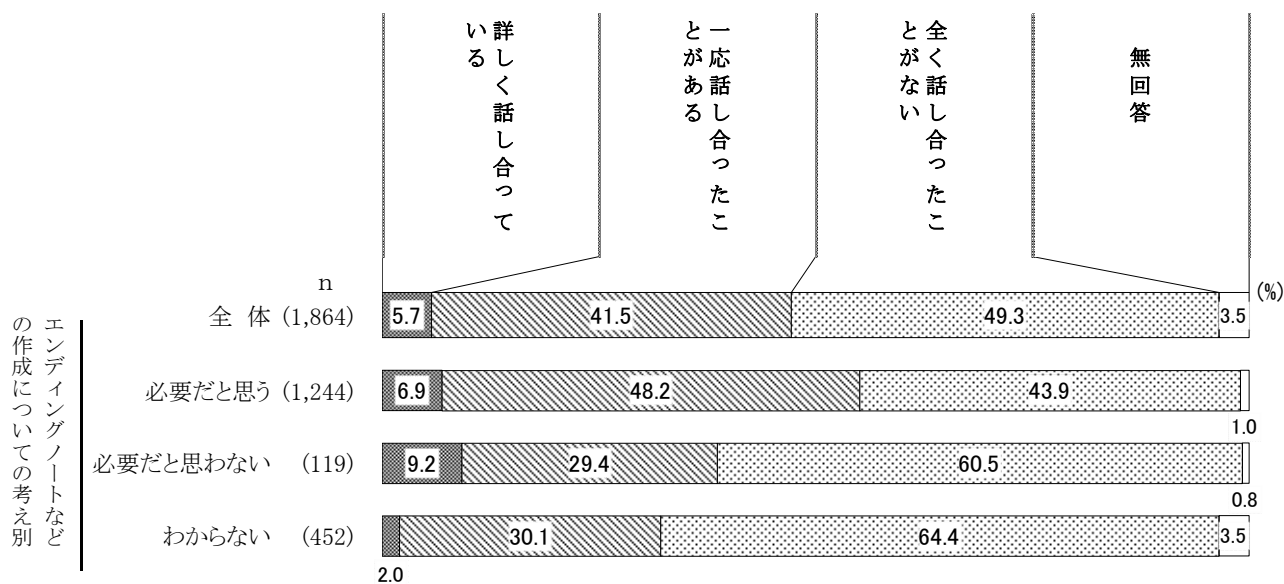
問18 あなたは、自分で判断できなくなった場合に備えて、どのような治療を受けたいか、あるいは受けたくないかなどを記載した書面(エンディングノートなど)をあらかじめ作成しておくことについて、どう思いますか。(1つに○)

<図表33> エンディングノートなどの作成



エンディングノートなどの作成についてたずねたところ、「必要だと思う」(66.7%)が6割台半ばを超えている。

<図表34> 人生の最終段階における医療についてご家族と話し合った経験
【エンディングノートなどの作成についての考え別（問17）】



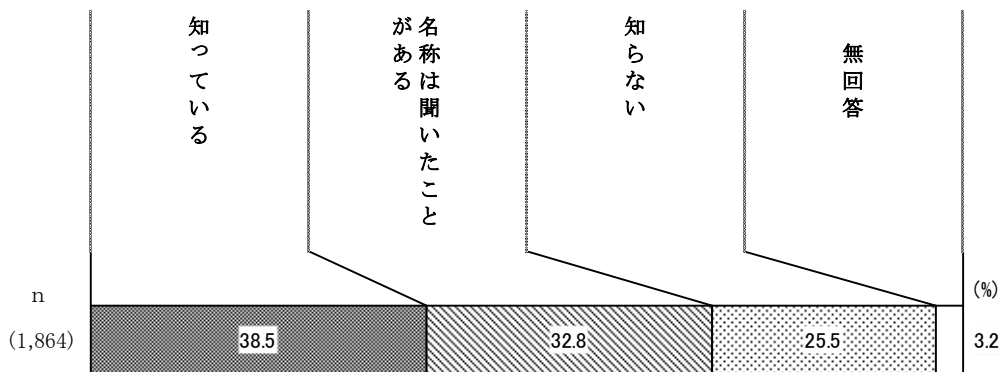
人生の最終段階における医療についてご家族と話し合った経験と、エンディングノートなどの作成についての考え別にみると、「必要だと思う」人のうち「全く話し合ったことがない」(43.9%)が4割台半ば近くとなっている。

(5) 緩和ケアについて

①「緩和ケア」の認知度

問19 あなたは、「緩和ケア」について、ご存じですか。(1つに○)

<図表35> 「緩和ケア」の認知度

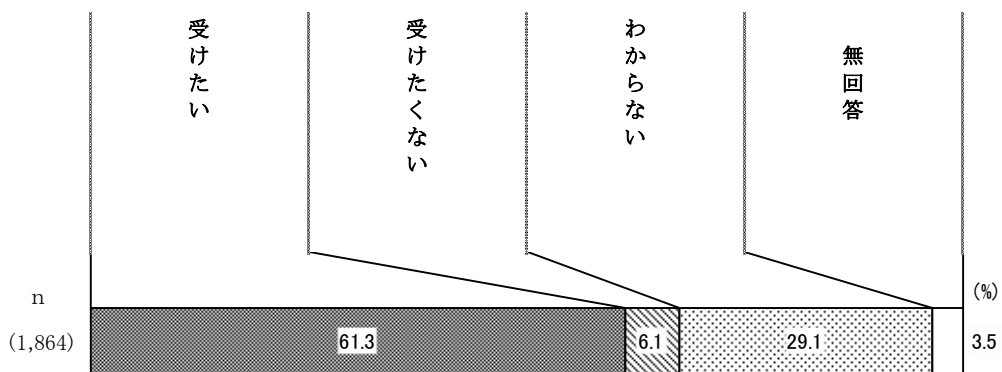


「緩和ケア」の認知度についてたずねたところ、「知っている」(38.5%)は4割近く、「名称は聞いたことがある」(32.8%)は3割強となっている。

②治療と併せた早期からの「緩和ケア」の意向

問20 あなたは、重い病と診断された場合、治療と併せて、早期から痛みやつらさの緩和を主とした「緩和ケア」を受けたいですか。(1つに○)

<図表36> 治療と併せた早期からの「緩和ケア」の意向

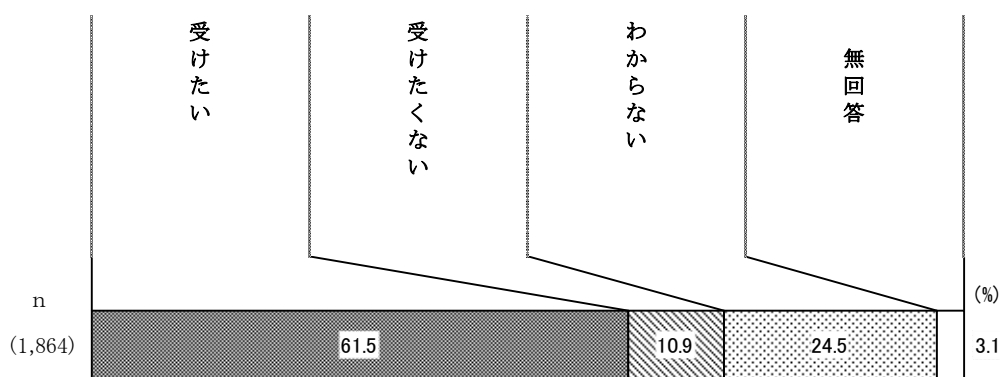


早期からの「緩和ケア」の意向についてたずねたところ、「受けたい」(61.3%)は6割強となっている。

③回復が期待できない場合の「緩和ケア」の意向

問21 あなたは、重い病で、回復が期待できない場合、痛みやつらさの緩和を主とした「緩和ケア」を受けたいですか。(1つに○)

<図表37> 回復が期待できない場合の「緩和ケア」の意向



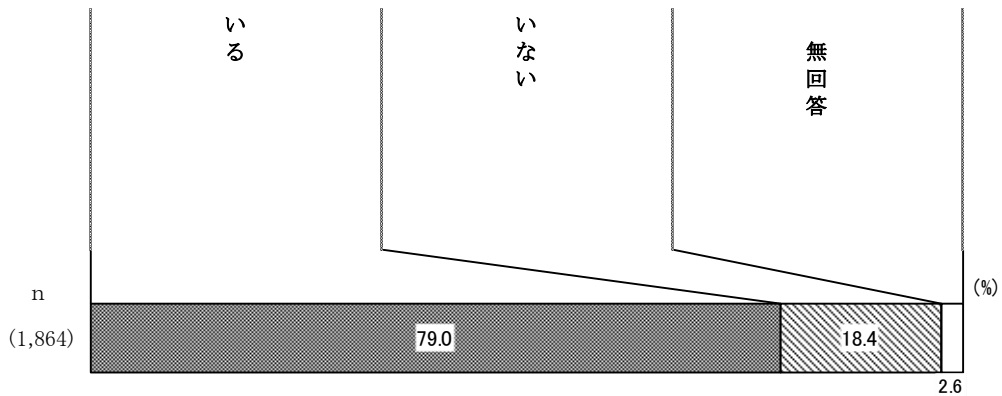
回復が期待できない場合の「緩和ケア」の意向についてたずねたところ、「受けたい」(61.5%)は6割強となっている。

(6) 歯科について

①かかりつけ歯科医の有無

問22 あなたは、治療や予防のために気軽に受診できる「かかりつけ歯科医」がいますか。
(1つに○)

<図表38> かかりつけ歯科医の有無

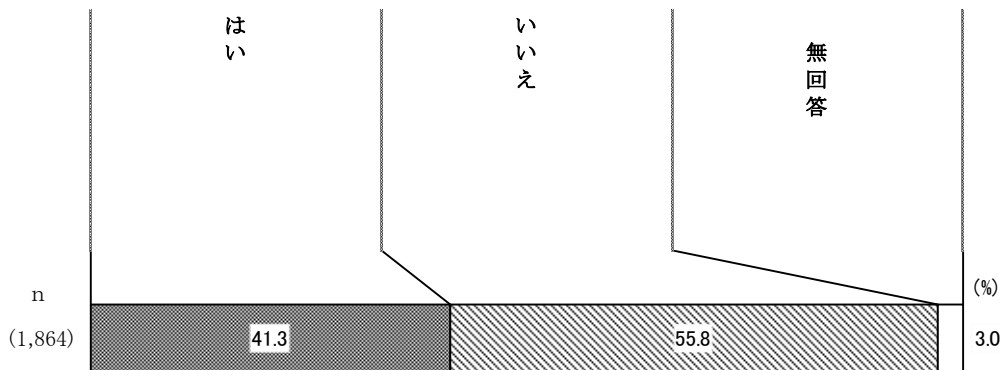


かかりつけ歯科医の有無についてたずねたところ、「いる」(79.0%)は8割弱となっている。

②往診してくれる歯科医院の認知度

問23 あなたは、往診してくれる歯科医院があることをご存じですか。(1つに○)

<図表39> 往診してくれる歯科医院の認知度



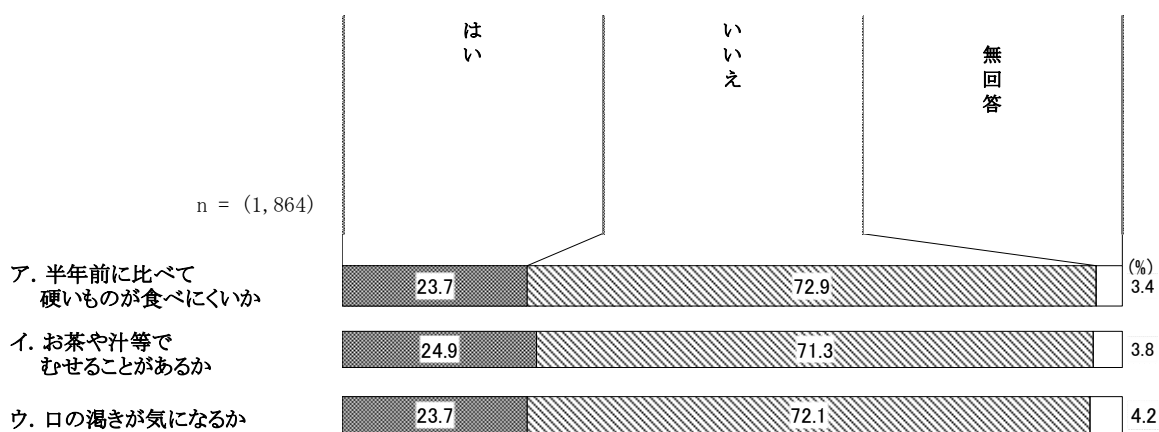
往診してくれる歯科医院の認知度についてたずねたところ、「はい」(41.3%)は約4割、「いいえ」(55.8%)は5割台半ばとなっている。

(7) 摂食嚥下（食べる機能）について

① 食べる機能について

問24 あなたの食べる機能について、ア～ウのすべての質問にお答えください。
 （それぞれ1つに○）

<図表40> 食べる機能について



半年前と比べて硬いものの食べにくさの有無についてたずねたところ、「はい」(23.7%)が2割台半ば近くとなっている。

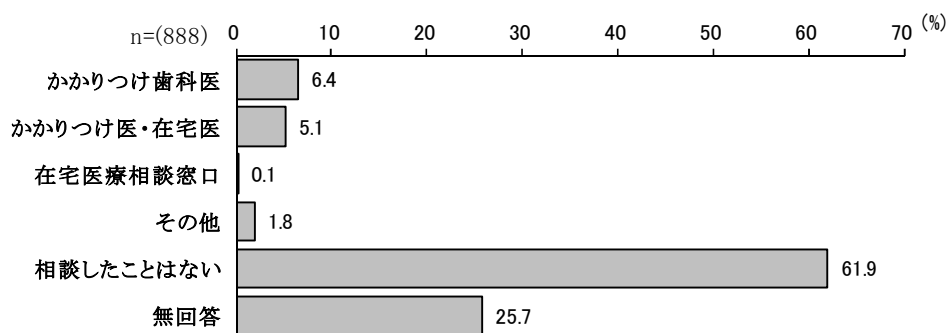
お茶や汁等でむせることの有無についてたずねたところ、「はい」(24.9%)が2割台半ば近くとなっている。

口の渇きの有無についてたずねたところ、「はい」(23.7%)が2割台半ば近くとなっている。

②摂食嚥下についての相談先

問24-1 <<問24のア～ウのいずれかまたはすべてで「はい」を選んだ方のみお答えください。>>
摂食嚥下についてどこかに相談したことはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表41> 摂食嚥下についての相談先（複数回答）



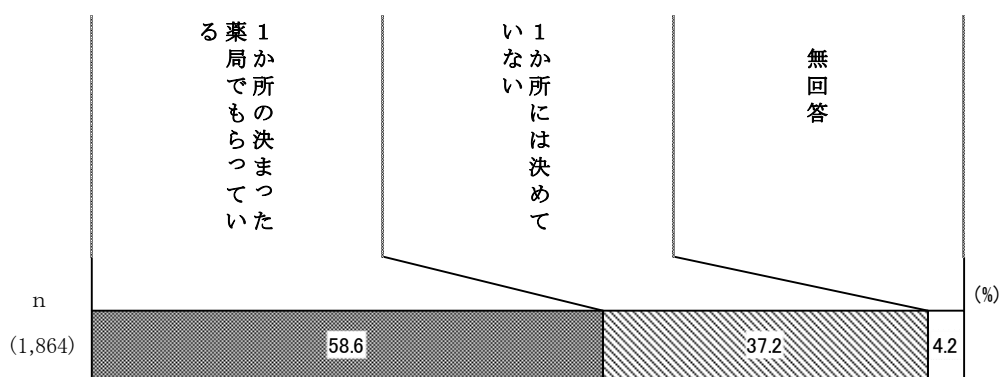
問24のいずれかまたはすべてで「はい」を選んだ人に摂食嚥下についての相談先をたずねたところ、「相談したことはない」(61.9%)が6割強で最も高かった。「かかりつけ歯科医」は6.4%、「かかりつけ医・在宅医」は5.1%となっている。

(8) 薬局について

①薬をもらう薬局の特定

問25 あなたは、病院・診療所から処方された薬をもらう薬局を1か所に決めていますか。
(1つに○)

<図表42> 薬をもらう薬局の特定

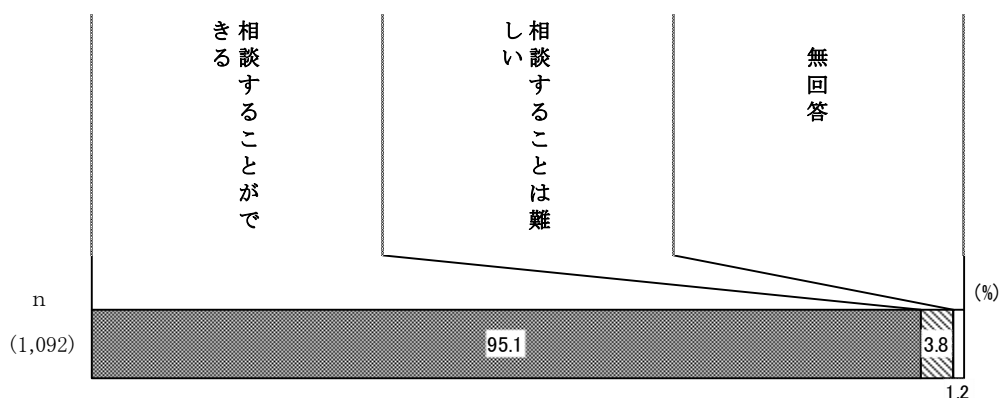


薬をもらう薬局を1か所に決めているかについてたずねたところ、「1か所の決まった薬局でもらっている」(58.6%)が6割近く、「1か所には決めていない」(37.2%)が3割台半ばを超えている。

②薬の説明を聞いたり、相談することの可能性

問25-1 <<問25で「1か所の決まった薬局でもらっている」を選んだ方のみお答えください>>
その薬局では、薬の説明を聞いたり、相談をすることができますか。(1つに○)

<図表43> 薬の説明を聞いたり、相談することの可能性

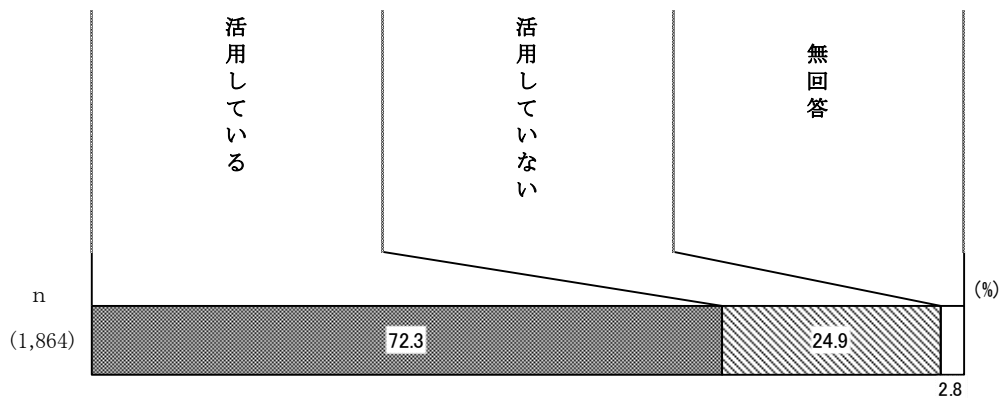


問25で「1か所の決まった薬局でもらっている」と回答した人に、薬局で薬の説明を聞いたり、相談することができるかについてたずねたところ、「相談することができる」(95.1%)が9割台半ばとなっている。

③お薬手帳の活用状況

問26 医師や薬剤師に見せることであなたの薬の情報が正しく伝わり、治療方針を検討する役に立てることができる「お薬手帳」を活用していますか。(1つに○)

<図表44> お薬手帳の活用状況



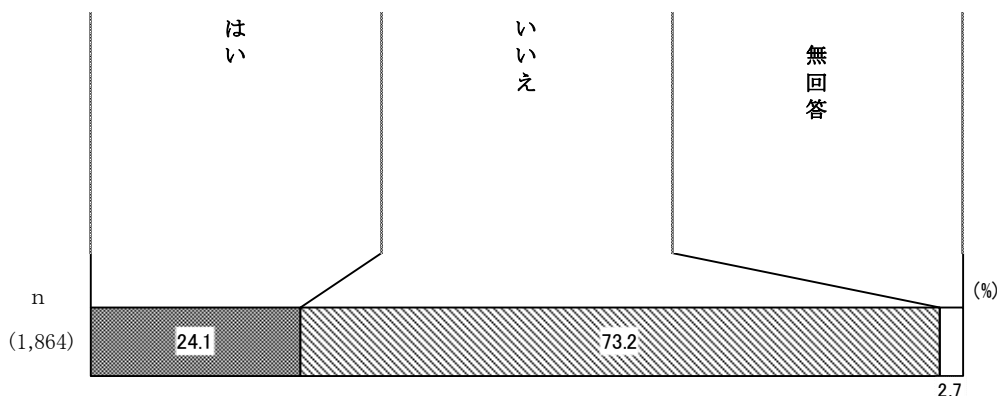
お薬手帳の活用状況についてたずねたところ、「活用している」(72.3%)は7割強、「活用していない」(24.9%)は2割台半ば近くとなっている。

(9) お住まいについて

①住まいにおける不便・不安の有無

問27 あなたは、現在のお住まいに不便や不安を感じていますか。(1つに○)

<図表45> 住まいにおける不便・不安の有無

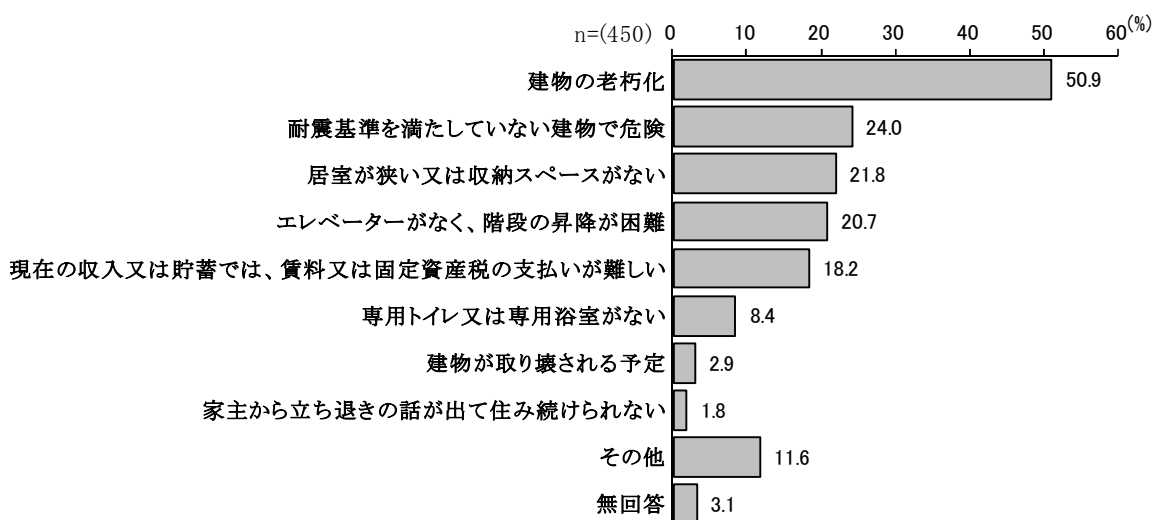


住まいにおける不便・不安の有無についてたずねたところ、「はい」(24.1%)は2割台半ば近く、「いいえ」(73.2%)は7割台半ば近くとなっている。

②住まいにおける不便・不安を感じる理由

問27-1 <<問27で「はい」を選んだ方のみお答えください>>
その理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

<図表46> 住まいにおける不便・不安を感じる理由(複数回答)

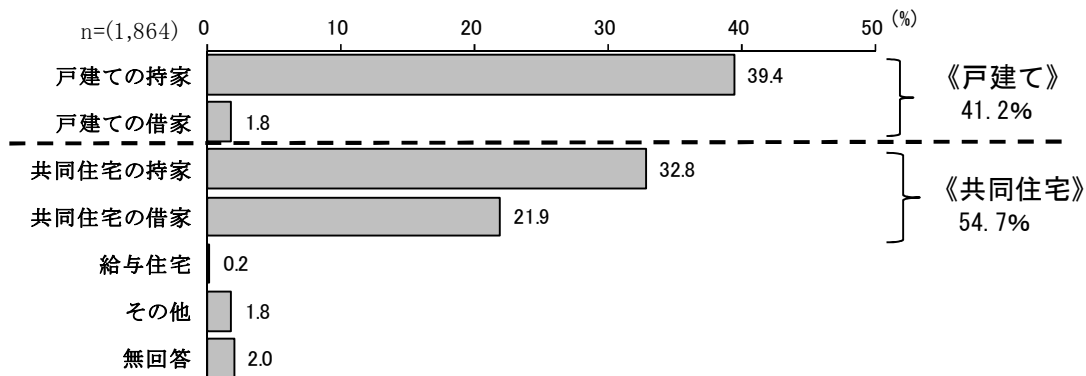


問27で住まいにおける不便・不安を感じているかについて「はい」と回答した人に、その理由についてたずねたところ、「建物の老朽化」(50.9%)が約5割で最も高く、次いで、「耐震基準を満たしていない建物で危険」(24.0%)、「居室が狭い又は収納スペースがない」(21.8%)の順となっている。

③住まいの形態

問28 現在のお住まいは次のうちどれですか。(1つに○)

<図表47> 住まいの形態

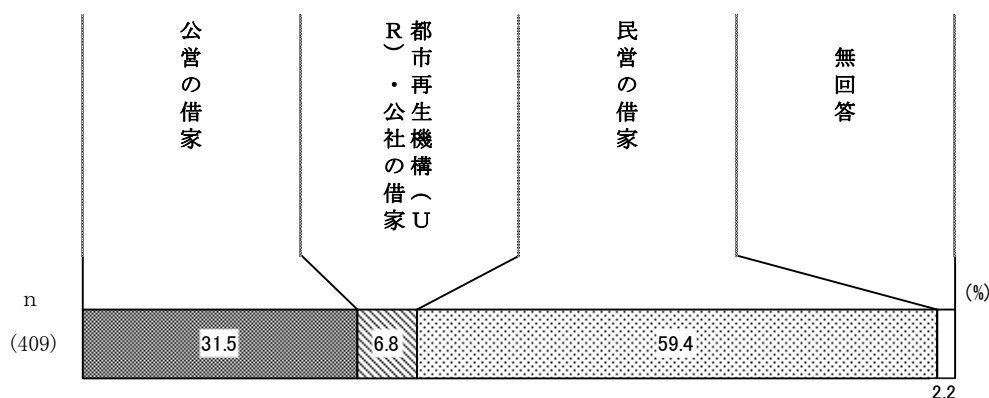


住まいの形態についてたずねたところ、「戸建ての持家」(39.4%)が4割弱と最も高く、次いで、「共同住宅の持家」(32.8%)の順となっている。《共同住宅》(54.7%)は5割台半ば近くとなっており、《戸建て》(41.2%)より13.5ポイント高くなっている。

④借家の種類

問28-1 <<問28で「共同住宅の借家」を選んだ方のみお答えください>>
該当する借家をお答えください。(1つに○)

<図表48> 借家の種類

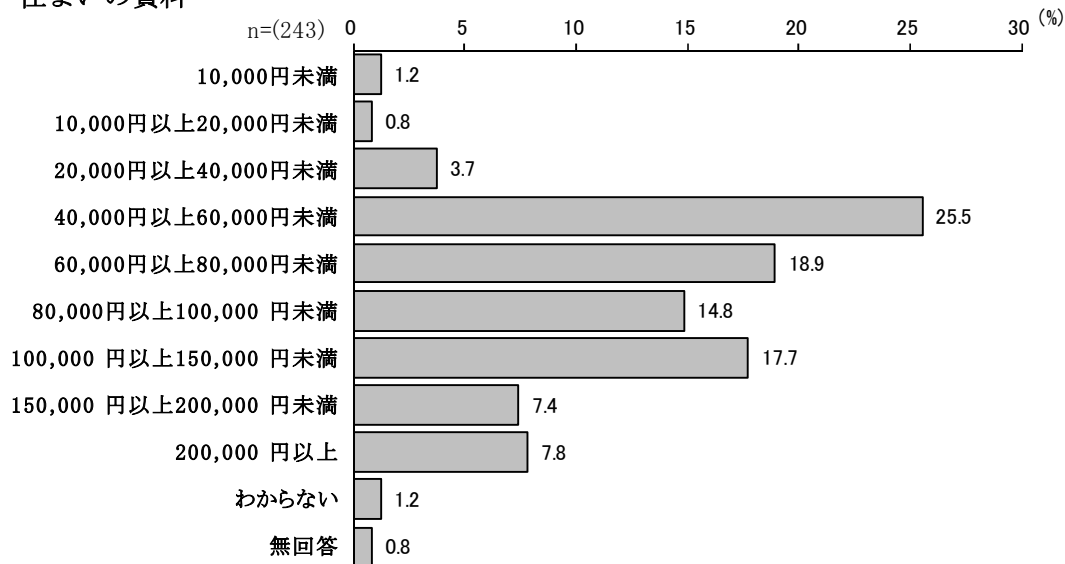


問28で「共同住宅の借家」と回答した人に借家の種類についてたずねたところ、「民営の借家」(59.4%)が約6割で最も高く、次いで、「公営の借家」(31.5%)、「都市再生機構(U)・公社の借家」(6.8%)の順となっている。

⑤住まいの賃料

問28-2 <<問28-1で「民営の借家」を選んだ方のみお答えください>>
 民営の借家（民間賃貸住宅）にお住まいの方の賃料負担の実態を把握させていただくため、お住まいの賃料についてお答え下さい。（1つに○）

<図表49> 住まいの賃料



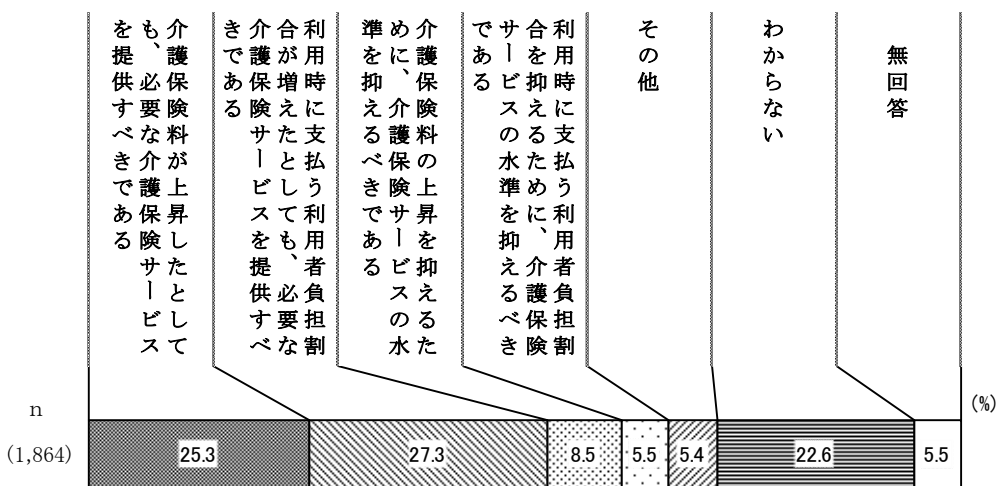
問28-1で「民営の借家」と回答した人に住まいの賃料についてたずねたところ、「40,000円以上60,000円未満」（25.5%）が2割台半ばで最も高く、次いで、「60,000円以上80,000円未満」（18.9%）、「100,000円以上150,000円未満」（17.7%）の順となっている。

(10) 介護保険制度について

①介護保険のサービスと費用負担

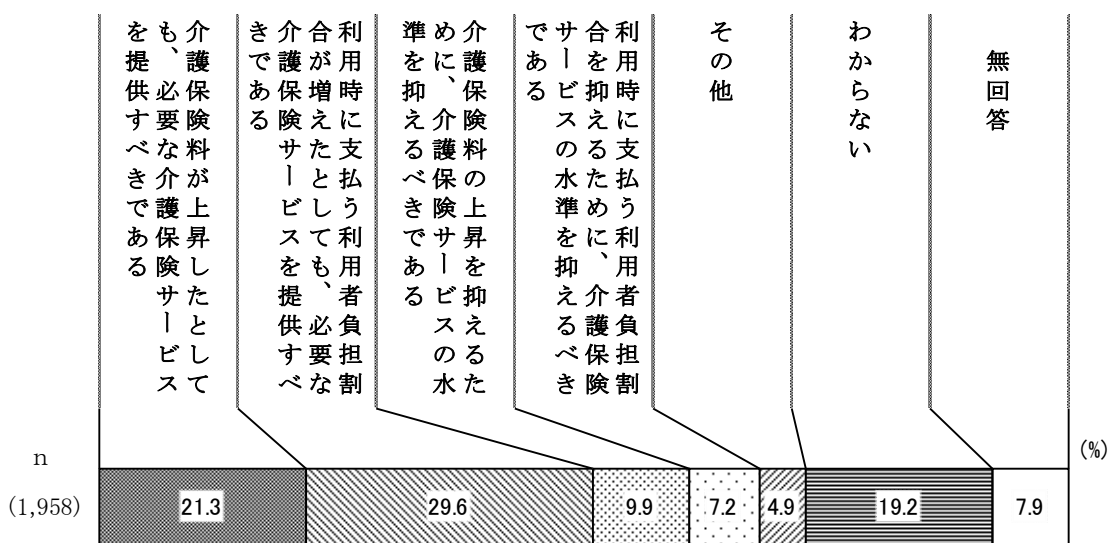
問29 今後、高齢者の増加に伴い、サービスにかかる費用も増大することが予想されます。介護保険のサービスと費用負担について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表50> 介護保険のサービスと費用負担



介護保険のサービスと費用負担についてたずねたところ、「利用時に支払う利用者負担割合が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」(27.3%)が2割台半ばを超えて最も高く、次いで、「介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」(25.3%)、「わからない」(22.6%)の順となっている。

【参考】<図表51> 介護保険のサービスと費用負担について(平成28年度調査)

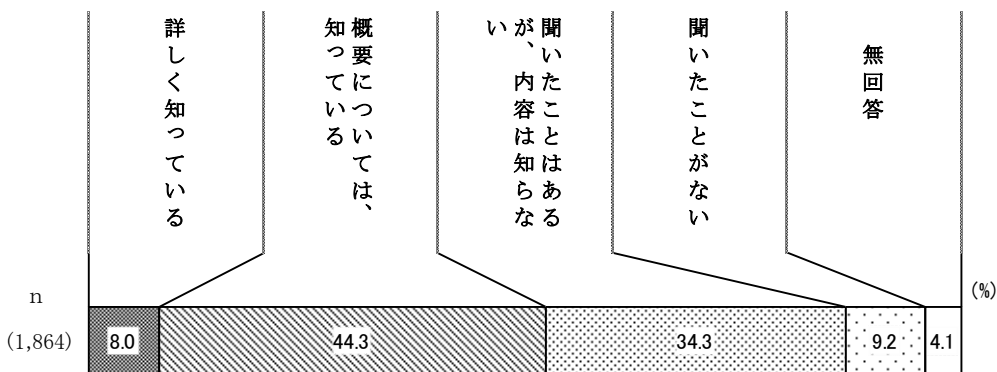


(11) 権利擁護について

① 成年後見制度の認知度

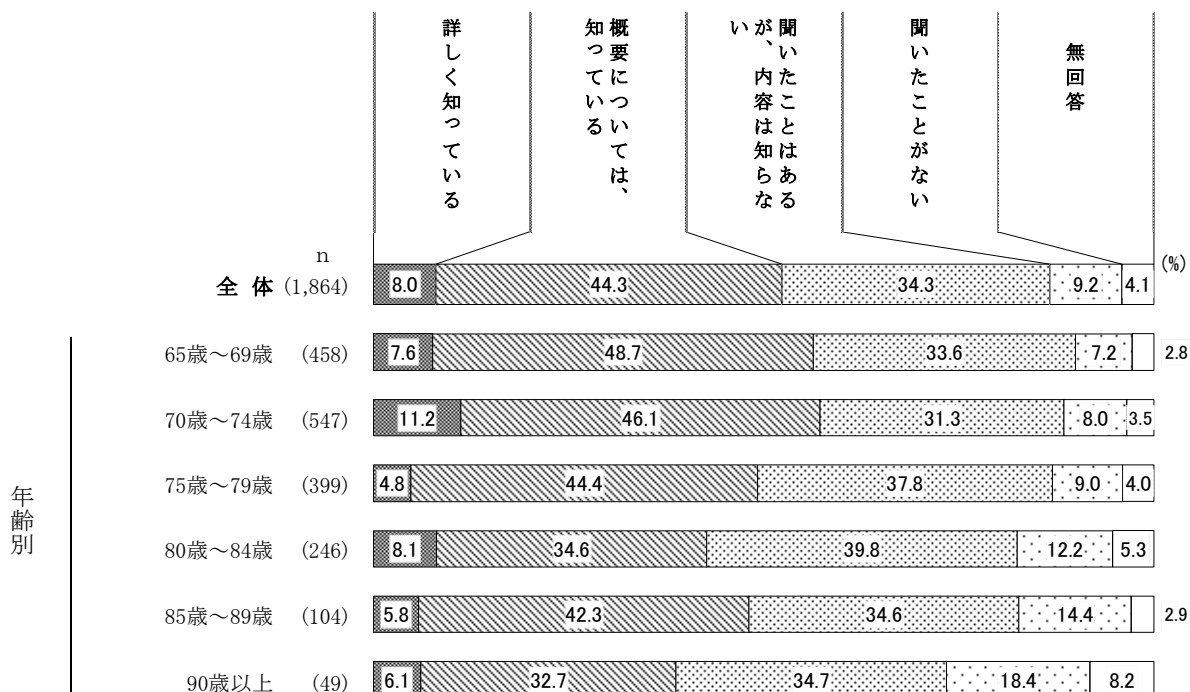
問30 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○)

<図表52> 成年後見制度の認知度



成年後見制度の認知度についてたずねたところ、「概要については、知っている」(44.3%)が4割台半ば近くで最も高く、次いで、「聞いたことはあるが、内容は知らない」(34.3%)、「聞いたことがない」(9.2%)の順となっている。

<図表53> 成年後見制度の認知度【年齢別】

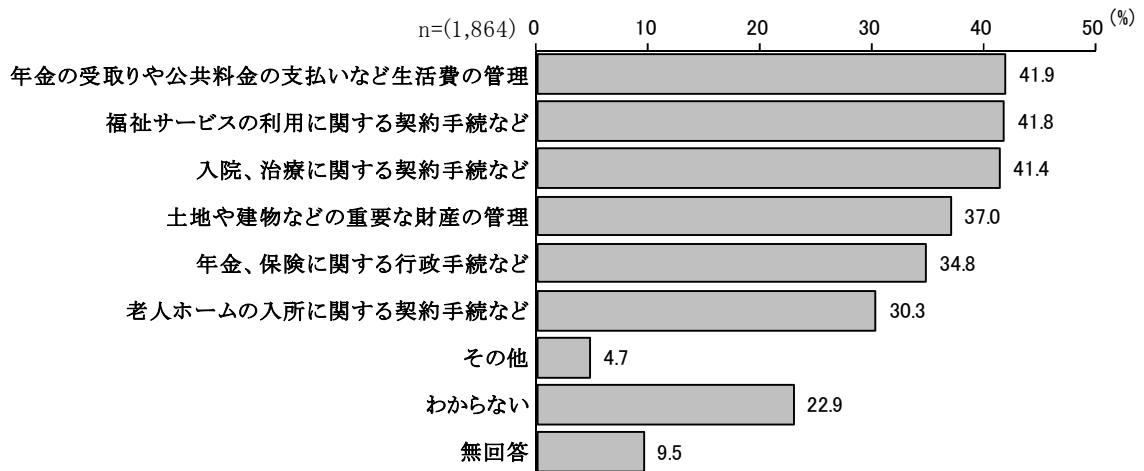


年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて、「聞いたことがない」の割合が高くなっている。

②成年後見制度に期待する役割

問31 あなたが成年後見制度に期待する役割は何ですか。
すでに利用している方もお答えください。(あてはまるものすべてに○)

<図表54> 成年後見制度に期待する役割（複数回答）

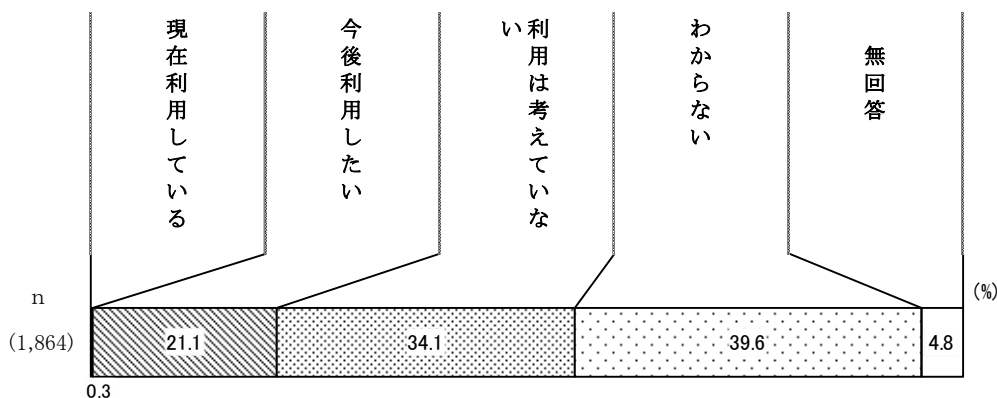


成年後見制度に期待する役割についてたずねたところ、「年金の受取りや公共料金の支払いなど生活費の管理」(41.9%)が4割強と最も高く、次いで、「福祉サービスの利用に関する契約手続など」(41.8%)、「入院、治療に関する契約手続など」(41.4%)の順となっている。

③成年後見制度の利用意向

問32 あなたは、あなた自身が認知症等により判断能力が十分でなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。(1つに○)

<図表55> 成年後見制度の利用意向

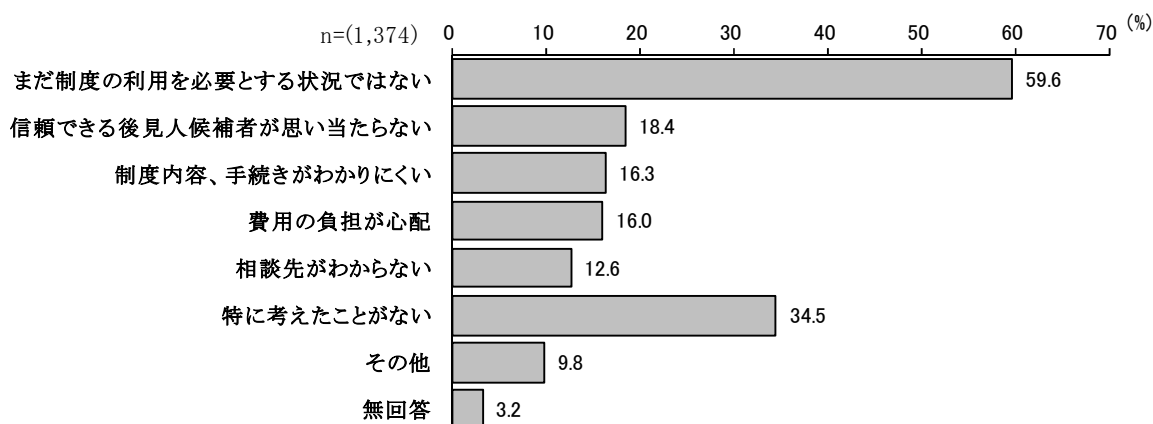


成年後見制度の利用意向についてたずねたところ、「わからない」(39.6%)が4割弱と最も高く、次いで、「利用は考えていない」(34.1%)、「今後利用したい」(21.1%)の順となっている。

④成年後見制度を利用しない理由

問32-1 <<問32で「利用は考えていない」または「わからない」を選んだ方のみお答えください>>
あなた自身が、成年後見制度を利用しない理由として、どのようなものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表56> 成年後見制度を利用しない理由(複数回答)

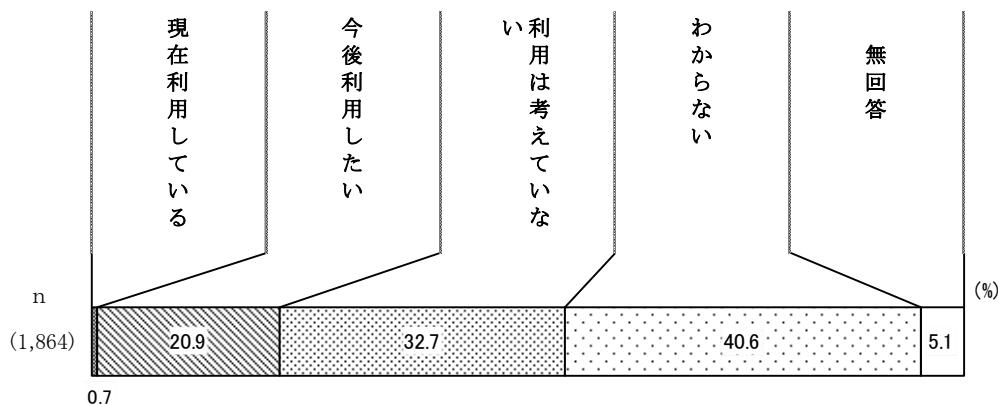


問32で「利用は考えていない」「わからない」と回答した人に成年後見制度を利用しない理由についてたずねたところ、「まだ制度の利用を必要とする状況ではない」(59.6%)が約6割で最も高く、次いで、「特に考えたことがない」(34.5%)、「信頼できる後見人候補者が思い当たらない」(18.4%)の順となっている。

⑤家族・親族の成年後見制度の利用意向

問33 あなたは、家族・親族が認知症等により判断能力が十分でなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。(1つに○)

<図表57> 家族・親族の成年後見制度の利用意向

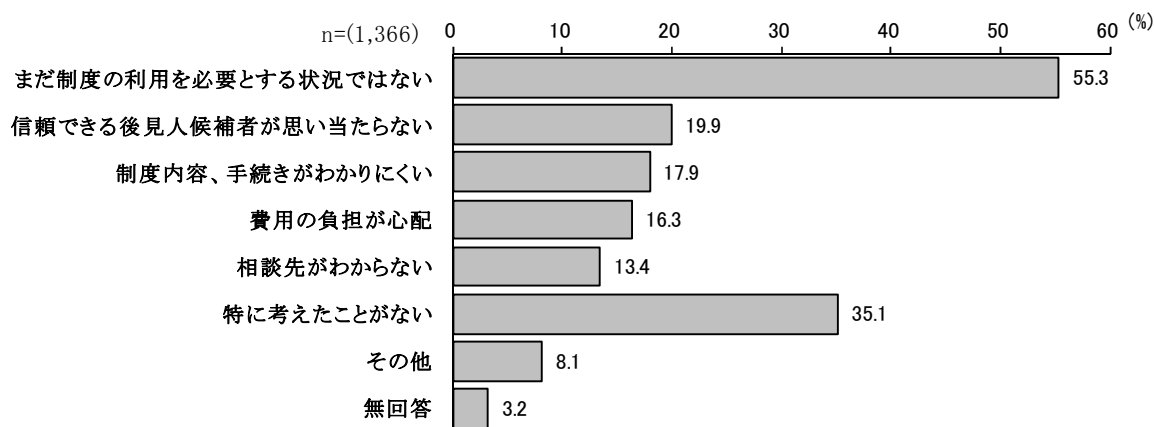


家族・親族の成年後見制度の利用意向についてたずねたところ、「わからない」(40.6%)が約4割と最も高く、次いで、「利用は考えていない」(32.7%)、「今後利用したい」(20.9%)の順となっている。

⑥家族・親族の成年後見制度を利用しない理由

問33-1 <<問33で「利用は考えていない」または「わからない」を選んだ方のみお答えください>>
家族・親族が、成年後見制度を利用しない理由として、どのようなものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表58> 家族・親族の成年後見制度を利用しない理由 (複数回答)



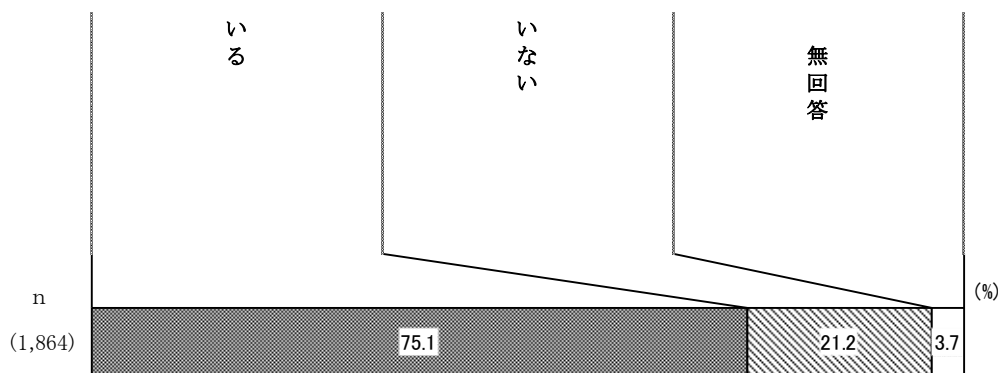
問33で「利用は考えていない」「わからない」と回答した人に家族・親族が成年後見制度を利用しない理由についてたずねたところ、「まだ制度の利用を必要とする状況ではない」(55.3%)が5割台半ばで最も高く、次いで、「特に考えたことがない」(35.1%)、「信頼できる後見人候補者が思い当たらない」(19.9%)の順となっている。

(12) 災害時の支援などについて

①災害時に同居者以外で頼りになる人の有無

問34 災害で困ったとき、同居者以外で頼りになる人がいますか。(1つに○)

<図表59> 災害時に同居者以外で頼りになる人の有無

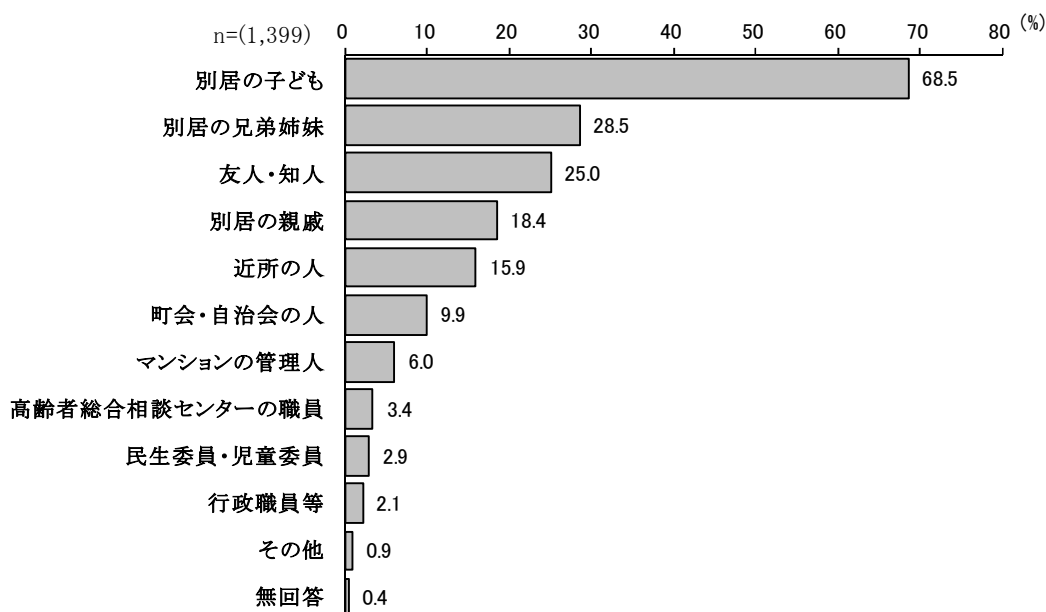


災害時に同居者以外で頼りになる人の有無についてたずねたところ、「いる」(75.1%)は7割台半ばとなっている。

②災害時に同居者以外で頼りになる人の続柄

問34-1 <<問34で「いる」を選んだ方のみお答えください>>
それはどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表60> 災害時に同居者以外で頼りになる人の続柄(複数回答)

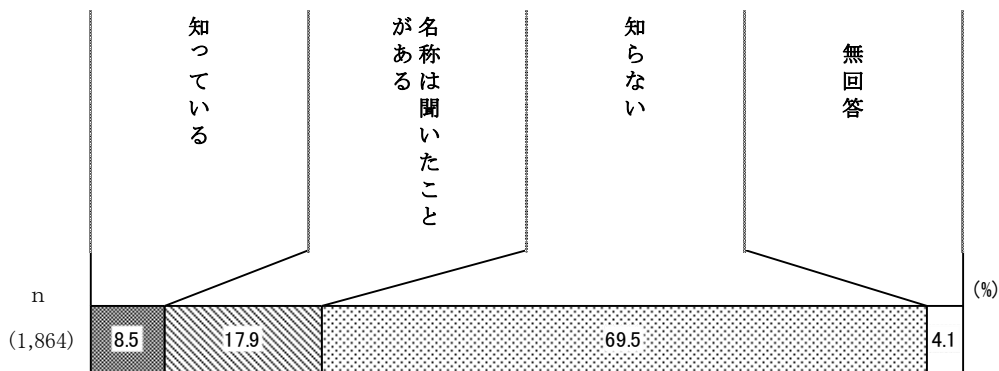


問34で同居者以外で頼りになる人が「いる」と回答した人に、その続柄についてたずねたところ、「別居の子ども」(68.5%)が7割近くと最も高く、次いで、「別居の兄弟姉妹」(28.5%)、「友人・知人」(25.0%)の順となっている。

③災害時要援護者名簿の認知度

問35 あなたは、災害時における安否確認などの支援を必要とする方が事前に登録する「災害時要援護者名簿」をご存知ですか。(1つに○)

<図表61> 災害時要援護者名簿の認知度



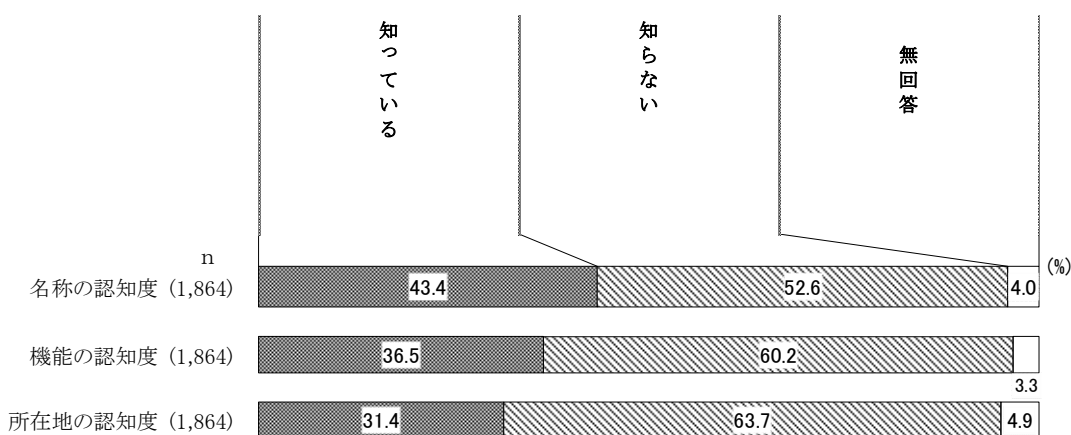
災害時要援護者名簿の認知度についてたずねたところ、「知らない」(69.5%)が7割弱と最も高く、次いで、「名称は聞いたことがある」(17.9%)、「知っている」(8.5%)の順となっている。

(13) 健康・福祉サービスの情報や相談窓口について

① 高齢者総合相談センターの名称・機能・所在地の認知度

問36 あなたは、「高齢者総合相談センター」の名称をご存じですか。(1つに○)
 問37 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関かご存じですか。(1つに○)
 問38 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるかご存じですか。(1つに○)

<図表62> 高齢者総合相談センターの名称・機能・所在地の認知度

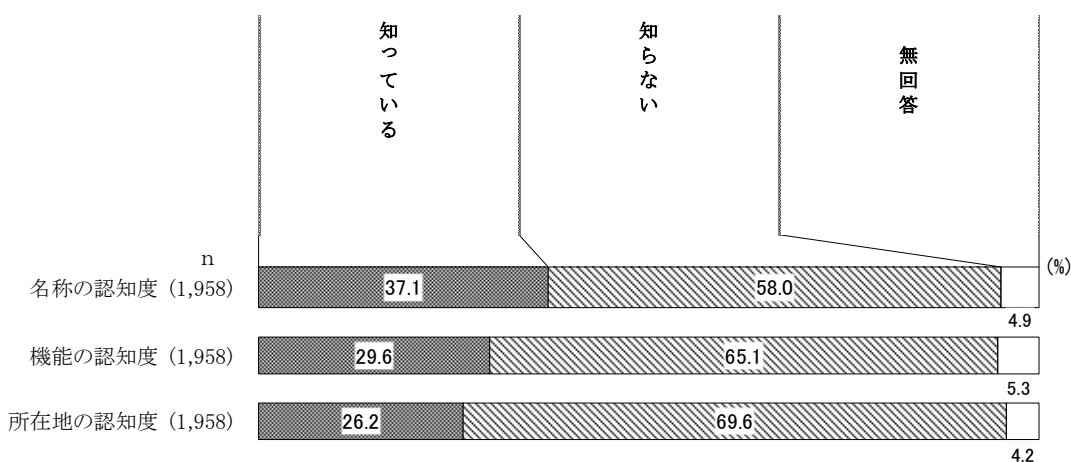


高齢者総合相談センターの名称の認知度についてたずねたところ、「知っている」(43.4%)は4割台半ば近くとなっている。

機能の認知度についてたずねたところ、「知っている」(36.5%)は3割台半ばを超えている。

所在地の認知度についてたずねたところ、「知っている」(31.4%)は3割強となっている。

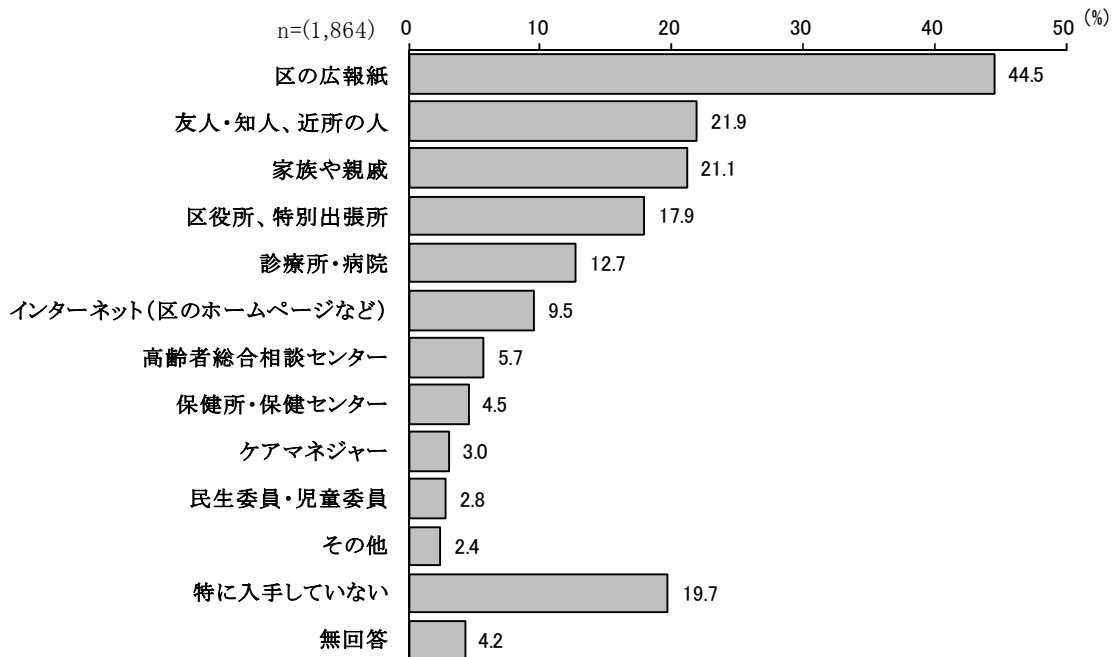
【参考】<図表63> 高齢者総合相談センターの名称・機能・所在地の認知度(平成28年度調査)



②健康や福祉サービスに関する情報の入手手段

問39 あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をどのような手段で入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表64> 健康や福祉サービスに関する情報の入手手段（複数回答）

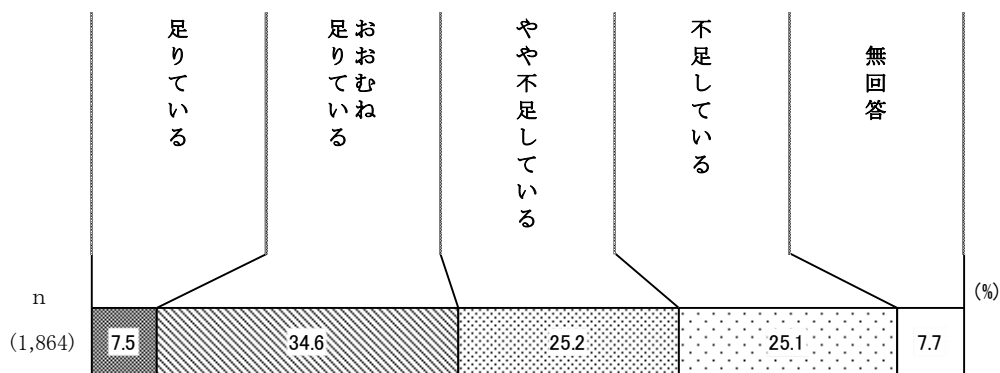


健康や福祉サービスに関する情報の入手手段についてたずねたところ、「区の広報紙」(44.5%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで、「友人・知人、近所の人」(21.9%)、「家族や親戚」(21.1%)の順となっている。

③健康や福祉サービスに関する情報量の充実度

問40 あなたの入手している健康や福祉サービスに関する情報量は足りていると思いますか。
(1つに○)

<図表65> 健康や福祉サービスに関する情報量の充実度



健康や福祉サービスに関する情報の充実度についてたずねたところ、「おおむね足りている」(34.6%)が3割台半ば近くと最も高く、次いで、「やや不足している」(25.2%)、「不足している」(25.1%)の順となっている。

④高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についての要望・意見

問41 最後に、高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についてたずねたところ、548人からの回答があった。回答の多かった内容は、「介護保険・保険料について」「情報提供・相談について」「高齢者施策について」の順であった。

各事項（その他除く）について、回答の中からいくつかの意見を示す。

介護保険・保険料について	情報提供・相談について	高齢者施策について	サービスについて	高齢者向け施設について	健康・介護予防について	医療・保健について	アンケートについて	地域のコミュニティについて	家族等介護者のことについて	独居高齢者について	住まいについて	認知症について	災害時・緊急時のことについて	その他
116	79	64	52	42	35	34	26	18	15	15	9	7	6	56

※1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。

【介護保険・保険料について】

- ・介護保険料が高いと思う。
- ・介護保険料が今後上昇していくのはやむを得ないが、必要とするサービスは引続き提供してほしい。

【情報提供・相談について】

- ・電話一本ですぐに通じる相談窓口がほしい。
- ・新宿区の区報より高齢者用の区報が欲しい。全体の中から自分に関する情報が簡単にわかる方がよい。

【高齢者施策について】

- ・新宿区は、かなり充実していると思います。充実はありがたいのですが過剰にならないよう、常に合理化の検討は、続けていただきたい。
- ・高齢者にとって、共に助け合って生きていけるような環境を作っていければいいと思います。そのための公助をよろしくお願いします。

【サービスについて】

- ・一人暮らしの人にサポートが届くように、配慮が必要と思う。
- ・区が中心となって、手厚いサポートのネットワークを個別に作っていただきたい。

【高齢者向け施設について】

- ・高齢者総合相談センターの所在及び活動内容・利用の仕方について、周知することが必要。
- ・高齢者がひきこもりにならないように、少人数で気軽に集まって、お茶を飲んだり、話をしたりする場所（情報交換できる）がもっとあるといいなと思います。

【健康・介護予防について】

- ・老後の不安を、一つでも取り除く政策をお願いしたい。予防に力を入れてもらいたい。
- ・運動など健康増進の方策を、気軽にできるようにしてほしい。

【医療・保健について】

- ・在宅医療の専門医の情報が欲しいです。
- ・健康診断の検査項目を増やして、特に血液検査等で予測しうる病気の予防や食事指導などがあるといいかなと思います。

【アンケートについて】

- ・アンケートに答えながら、自分をもっと知ろうとして学ばねばならないと感じました。アンケートの後半に知らないことが沢山ありました。
- ・このようなアンケートを時々ください。再確認できます。

【地域のコミュニティについて】

- ・お隣、近所がワンルームマンションやアパートになり、挨拶すらする相手が居なくなって、災害時などにどうすれば良いかと思うときがあります。
- ・地域ごとに細分化した集まる場所があるとよい。個人宅などもある程度行政が関与・指導可能なら提供できる。

【家族等介護者のことについて】

- ・主人の在宅介護でやむをえず息子に仕事をやめさせてしまい、5年間手助けをしてもらいました。息子の今後がどうなるか気になります。
- ・夫婦2人共現在は介護の必要はないが、いつ介護が必要になり、子ども達に負担を掛けるか不安です。

第2章 2-1 一般高齢者【基本】調査

【独居高齢者について】

- ・一人暮らしですので考えだしたら何も分からず、不安だけです。
- ・一人暮らしの家が多いため、急病時に助けを求める手段、器具（日常の見まもり方法、知らせる方法）など何かないか。孤独死が多いため必要か。

【住まいについて】

- ・高齢者が都営住宅に、容易に入居できるようにしてください。

【認知症について】

- ・75才以上になったら、健康診断に認知症の検査も入れてほしい。現在一番心配なのは、認知症になることです。

【災害時・緊急時のことについて】

- ・高齢者への見守りは必要かと思います。地域でどのような暮らしをしているか、把握している事が災害時にも有効かと思います。